

●馬匹牽夫給料ノ件

明治四十五年二月十三日馬甲第三二二號  
馬政局第二課長通牒

場所最近停車場間馬匹牽付ノ爲牽夫ヲ傭入ルルトキハ別紙給料ノ範圍内ニ於テ支給スルコトニ決定相成  
條此段及通牒候也

(別紙)

短距離馬匹牽夫給料		牽夫給料日額
馬匹輸送經路		
奧羽種馬牧場 沼崎停車場間		八〇〇 <small>円</small>
十勝種馬牧場 帶廣停車場間		一 二〇〇
種馬育成所 盛岡停車場間		五〇〇
岩手種馬所 盛岡停車場間		五〇〇
熊本種馬所 上熊本停車場間		六〇〇
福島種馬所 白河停車場間		四〇〇
愛知種馬所 岡崎停車場間		三五〇
長野種馬所 御代田停車場間		五〇〇

馬匹補充淘汰及貸下



鹿兒島種馬所	牧園停車場間	七〇〇
長萬部種馬所	黒岩停車場間	三〇〇
備	考	
一 兩天ハ二割、降雪ノ場合ハ三割以内、夜間ハ四割以内ヲ増給スルコトヲ得		
二 本表牽夫給料ハ牧耕手ニハ支給セス但シ賜暇ノ場合ハ此限ニアラス		
三 秋田、石川、青森種馬所ト最近停車場間ハ牧耕手ヲシテ牽付ケシムルモノトス但シ常務ノ都合ニ依リ牧耕手ヲシテ牽付ケシムルコト能ハサルトキハ一日金參拾錢以内ノ牽夫ヲ傭入ルルコトヲ得		

雜 則

●馬匹種類ノ稱呼並馬匹特徵記載例

明治四十二年七月七日  
馬政局達第二〇號

本局  
種馬牧場  
種馬育成所  
種馬場所

馬匹種類ノ稱呼並馬匹特徵記載例別紙之通定ム

(別紙)

馬匹種類ノ稱呼

一、洋 種

外國種ノ總稱ニシテ種類ノ原名明瞭ナルモノハ其ノ名稱ヲ用フ

例

アラブ  
サラブレッド  
アンダロアラブ  
トロタター  
ノニウス  
ベルシユロン  
クライデスデール

アラブ  
ギドラン  
ハクニー  
アングロノルマン  
ブラバンソン  
等

各種類ノ馬匹ニシテ原産地以外ニ於テ同種繁殖ニヨリ生産シタルモノハ種類名ノ上ニ産地名ヲ冠ス



例 濠洲産サラブレッド 内國産ハクニー  
 純血種系ノ種類ニ純血種ヲ配合シテ生産シタルモノハ其ノ種類名ヲ變スルコトナシ

- 例
- アンダロノルマン ノ子 アンダロノルマン
- サラブレッド ノ子 アンダロアラブ
- サラブレッド又アラブ ノ子 アンダロアラブ
- サラブレッド ノ子 ハクニー
- ハクニー

異種繁殖ニヨリ生産シタルモノ及種類名ナキモノハ單ニ洋種ト稱シ産地名ヲ冠ス

- 例
- サラブレッド ノ子 ハクニー
- ブラバンソン ノ子 ノーニウス
- ノ子 濠洲産馬
- トロッター ノ子

二、和種

内國産ニシテ洋種ノ血液ヲ混セサルモノヲ謂フ

三、雜種

和種ト洋種トノ血液相混シタルモノノ總稱ニシテ種類名ノ明瞭ナル洋種ノ血量半以上ヲ有スルモノハ其ノ名ヲ冠ス

- サラブレッド ノ子 サラブレッド雜種
- 和種
- ハクニー ノ子 ハクニー雜種
- サラブレッド雜種 ノ子
- アンダロノルマン雜種 ノ子 アンダロノルマン雜種
- アンダロノルマン雜種 ノ子
- ハクニー雜種 ノ子 雜種
- アンダロノルマン雜種 ノ子 雜種
- ハクニー雜種 ノ子 雜種
- 和種
- 雜種 ノ子 雜種
- 和種

馬匹特徵記載例

一、白毛

額ニ生シタル小數ノ白毛ヲ謂フ  
 額ノ中央ニ存スル白斑ニシテ其ノ著シク小ナルヲ小星ト謂フ  
 星ノ長ク下方ニ延ヒタルモノヲ謂フ  
 鼻端ニ存スル白斑ヲ謂フ



白

肢ノ下端ニアル白斑ニシテ其ノ稱呼左ノ如シ

左前二白

前二白

右二白

右前左後二白

右後一白

後二白

左前後三白

前右後二白

四白

但シ白ノ完カラサルモノハ之ヲ半白ト謂フ

二、癩痕

癩痕

痕

創傷ニヨル禿痕ヲ謂フ疵白又ハ癩痕ノ前膝ニアルモノハ特ニ冠膝ト謂フ

筋肉ノ一部窪ミテ皮上ニ陷凹ヲ呈セルモノヲ謂フ

癩痕及岩陷ハ其ノ部位ヲ併記ス

三、烙印

頸、軀、肢等ノ一部ニ烙印アルモノハ部位ト烙印ノ形狀トヲ併記ス

四、旋毛

右ノ外局所ノ刺毛、異毛ニ生タル異色毛ヲ謂フ裂(截)痕等ニシテ特徴トナルヘキモノハ之ヲ記載スヘシ

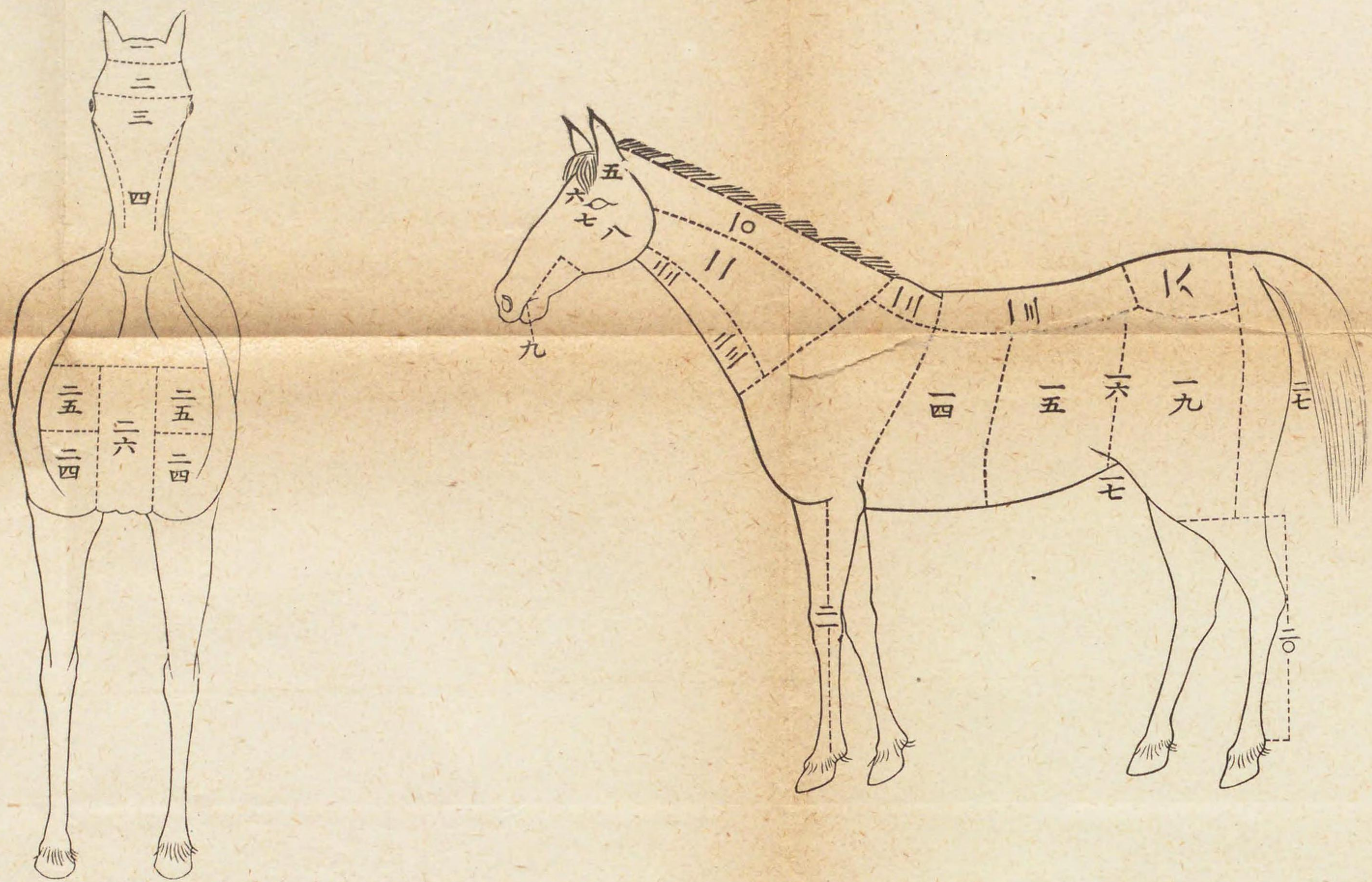
頂字 名稱 立 置 稱

Table with multiple columns and rows of faint text, likely a classification or index table.



右前後二白 右後一白 右前後二白 前後二白  
 左前後二白 前後二白 左前後二白 前後二白  
 但シ白ノ完カラサルモノハ之ヲ半白ト謂フ  
 創傷ニヨル禿痕ヲ謂フ疵白又ハ癩痕ノ前膝ニアルモノハ特ニ冠膝ト謂フ  
 筋肉ノ一部窪ミテ皮上ニ陷凹ヲ呈セルモノヲ謂フ  
 癩痕及岩陷ハ其ノ部位ヲ併記ス  
 三、烙 印  
 頸、軀、肢等ノ一部ニ烙印アルモノハ部位ト烙印ノ形状トヲ併記ス  
 右ノ外局所ノ刺毛、異毛（先天、創傷ノ別ナク局部ニ生ジタル異色毛ヲ謂フ）裂（截）痕等ニシテ特徴トナルヘキモノハ之ヲ記載スヘシ  
 四、旋 毛  
 旋毛ノ部位及名稱左ノ如シ

圖



解

順序	名稱	位 置	摘 要
一	血 醉	額部兩耳ノ下線以上	中央ヨリ偏スルトキハ上、下、左、右
二	蓬 萊	兩耳ノ下線ヨリ兩眼上線ニ至ル	中央ヨリ偏スルトキハ上、下、左、右、二個並ブトキハ日月、三個ナレハ三光
三	珠 目	兩眼上線ヨリ鼻梁中央線ニ至ル	中央ヲ正トシ偏スルトキハ上、下、左、右、二個アルトキハ二列又
四	華 粧	鼻梁中央ヨリ鼻孔ニ至ル	中央ヲ正トシ偏スルトキハ上、下、左、右
五	面 山	兩耳外側ヨリ眼側ニ至ル	
六	見 上	眼上	
七	眼 下	眼下	
八	頰 辻	頰ノ後部一圓	
九	轡 擲	頰ノ前方鼻孔下ニ至ル一圓	
一〇	髮 中	耳下ヨリ鬚甲前縁ニ至ル上縁部	上、下、又ハ長
一一	頸 中	中央頸部	同
一二	押 甲	鬚甲部	
一三	鞍 下	背部	
一四	鐙 端	肋ノ前半部ヨリ腹ニ至ル	上、下
一五	芝 引	肋ノ後半部ヨリ腹ニ至ル	同
一六	芭 蕉	臑部	同
一七	骨 正	芭蕉ノ下端	
一八	矢 負	尻部	
一九	馴 寄	股部	
二〇	沙 流 上	脛及管部	上、下又ハ個數
二一	初 地	前膊及管部	同
二二	吭 擲	咽喉部ヨリ頸下縁三分ノ一二至ル	同
二三	波 分	頸下縁三分ノ一以下頸礎ニ至ル	上、下又ハ長
二四	柏 生	胸前兩側下部	一定ノ形状ヲ欠クトキハ大、小
二五	雙 門	胸前兩側上部	
二六	浪 門	胸前中央	上、下又ハ個數
二七	後雙門	臀部	

旋毛ハ特徴トナルヘキモノ三點以上ヲ記載スヘシ  
 左右對等ナルヘキ旋毛ニシテ一側ヲ缺クトキハ左又ハ右ト記スヘシ







●馬匹種類ノ稱呼ノ件

明治四十三年四月二十七日馬甲第七九八號  
馬政局第二課長通牒

ノーススター種ノ稱呼ハ從來ノルドスター、又ノードスター等區々ニ相涉リ居候處右ハ整理上不都合不尠候ニ付自今ノーススター種ト稱スル義ニ決定相成候條依命此段及通牒候也

●馬匹種類稱呼並特徵記載方ニ關スル件

明治四十二年七月七日馬發第四〇一號  
馬政長官通牒

馬匹種類ノ稱呼並馬匹特徵記載例別紙ノ通定メ本局ニ於テハ自今之ニ據リ處理可致候間御管内へ周知方便宜御取計相成度此段及御通牒候也

(別紙略ス)

(陸軍省、農商務省、宮内省宛通牒)

馬匹種類ノ稱呼並馬匹特徵記載例別紙ノ通定メ本局ニ於テハ自今之ニ據リ處理致候間此段及御通知候也

(別紙略ス)

●馬匹ノ運動及調教法草案配賦ノ件

明治四十四年五月二日馬甲第一、〇四七號  
馬政局書記官通牒

別冊馬匹ノ運動及調教法草案配布致候條爾今本草案ノ要領ニ準シ實施相成度依命此段及通牒候也

(別冊)

馬匹ノ運動及調教法草案

第一章 運動

一、運動ハ馬匹ノ胸腔器關ヲ强健ニシ筋骨ヲ鍛練シ以テ馬匹體力ノ健全ヲ求ムルヲ目的トシ種牡馬、蕃殖牝馬及幼馬ニ之ヲ課シ其ノ方法ヲ分テ追運動、放運動及騎乗トス







三、馬群ノ指揮ハ常ニ先頭ニ在ル監視者之ヲ執リ其ノ步度及手前變換ハ乘馬運動ニ於ケルト同一ノ號令ヲ用ウルモノトス

四、手前變換ハ行進中ニアリテハ馬場ノ斜線ヲ用キ駐立中ニアリテハ其ノ位置ニ於テ行フモノトス

第二 放運動

放運動ハ運動場ニ於テ馬匹ニ任意ノ運動ヲ行ハシメ既熱ヲ去リ外氣ニ浴セシムルヲ以テ目的トス故ニ他ノ作業ニ妨ケナキ限リハ成ルヘク長ク厩外ニ出スヲ要ス然レトモ危害ヲ豫防スル爲必要ノ監視者ヲ附スルヲ要ス

第三 放牧

放牧ハ放牧地休閑畑又ハ明年改墾ヲ爲スヘキ畑地ニ於テ行ヒ馬匹ヲシテ散亂放肆ナラシメサル爲必要ノ監視者ヲ附スルモノトス

第四 騎乘

一、騎乘ハ運動場又ハ場外ニ於テ行フ而シテ其ノ人員ハ場所ノ廣狹ニ依リ一様ナラサルモ通常十名ヲ以テ一組トス

第二章 調教

一、調教ハ飼料ト相俟テ體力ヲ發達シ同時ニ馬體ノ柔軟ト平衡トヲ得セシメ輓馬ニアリテハ尙ホ繫駕ニ馴致セシムルヲ以テ目的トス

二、各種ノ運動及步度ハ調教ノ進歩ト馬匹體力ノ發達トニ伴ヒ漸次其ノ度ヲ進メ遂ニ規定ノ域ニ達セシムルヲ要ス徒ラニ速成ヲ求メ過劇ノ運動ヲ課スルハ却テ惡癖ヲ惹起シ損害ヲ招クモノトス殊ニ伸暢駢歩ハ馬匹ヲ疲勞セシムルコト多キヲ以テ之カ調教中ハ馬匹ノ飼養及ヒ取扱ニ一層ノ注意ヲ加フルヲ要ス

三、毎日行フ調教時間ハ概ネ一時三十分間トス  
四、調教ニ關シテハ本規定ノ外馬術教範ヲ參照スルヲ要ス  
第一 乘馬調教  
調教ノ爲メニ行フ運動ハ左記ノ順序ニ據ル

第一期(二箇月)	第二期(三箇月)	第三期(三箇月)	第四期(三箇月)
厩内馴育	前期ノ復習 <small>(追運動ヲ除ク)</small>	前期ノ復習	前期ノ復習
追運動	水勸調教	後足旋回	伸暢速歩及ヒ
乘馬下馬	常歩	輪乗ノ開閉	伸暢駢歩
常歩	速歩	輪乗ノ開閉	
自然速歩	手前變換	半卷	
手前變換	前足旋回	各個乗	
	輪乗		
	輪乗變換	輪乗上ノ駢歩	
	退却	蹄跡上ノ駢歩	
	伸暢速歩	徒歩障飛越	



場外演習伸暢駢步

第一期

- 一、第一期ハ十月中旬ヨリ十二月中旬ニ至ル二箇月間トシ豫行調教ヲ施シ漸次馬匹ヲシテ沈靜ニ騎手ノ負擔ニ堪ヘシム
- 二、追運動ハ幼駒ノ運動法ニ準シテ施行ス其ノ時間ハ約三十分間トス
- 三、乘馬下馬ハ追運動後馬匹ノ沈靜スルヲ待テ行フモノトス
- 四、本期間ニ於テ取ルヘキ自然速度ノ速度ハ一分間約一八〇米突トシ本期末ヨリ時々通常ノ速度ヲ課スルヲ要ス
- 五、乘馬運動ハ追運動後約一時間トシ騎手既ニ乘馬シ得ルニ至ルモ其ノ運動ハ先頭及後尾ニ附セシ古馬(場合ニ依リ助手)ノ誘導ニ俟テ運動ニ慣ルルニ伴ヒ漸次古馬ヲ離隔シテ水勒調教ヲ始ムルヲ要ス

第二期

- 一、第二期ハ十二月中旬ヨリ三月中旬ニ至ル三箇月間トシ馬匹ニ前進力ヲ附與シ扶助ヲ了解セシム
- 二、本期中取ルヘキ速度ノ配合ハ概ネ左ノ例ニ據ル
 

常速	常速	常速	下馬	常速	常速
歩	歩	歩	歩	歩	歩
一〇、三、 <sup>分</sup>	一〇、五、 <sup>分</sup>	五、五、 <sup>分</sup>	一〇、五、 <sup>分</sup>	六、一〇、 <sup>分</sup>	一〇、 <sup>分</sup>
- 三、速度後ノ常歩ハ往々弛緩シ易キ故特ニ輕捷活大ナラシムヘシ之カ爲メ馬ヲ放肆ナラシメサル限リ一時韁ヲ弛メ馬頭ノ運動ヲ自由ナラシムルト同時ニ兩脚ヲ交互適度ニ壓迫シ以テ馬匹ヲシテ自然ニ銜ヲ受ケ

計 八〇分 (約三分ノ一)  
 常歩 五五分 速歩 二五分

シムルヲ要ス

- 四、前足旋回ハ始メヨリ強テ完全ヲ望ムヘカラス要スルニ後軀ヲ轉移セシムルヲ主眼トシ深ク前足ノ運動ヲ抑止セス漸次各種回轉運動ノ進歩ニ伴ヒ之カ調教ヲ進ムルヲ要ス
- 五、場外演習ハ成ルヘク廣濶ニシテ肢蹄ヲ害セサル土地ヲ撰ミ専ラ地物ニ馴ラシ且ツ體力ノ増進ヲ計ルモノトス
- 六、伸暢速歩ハ運動間二回以内トシ一回ノ時間ヲ二分間以内トス而シテ之カ速度ハ最極度ヲ求メス馬匹ノ體力ニ應シ餘裕アル速力ヲ用ウルモノトス

第三期

- 一、第三期ハ三月中旬ヨリ六月中旬ニ至ル三箇月間トシ漸次扶助ノ操作ニ應セシメ四肢ノ開發ヲ促ス
- 二、本期間取ルヘキ速度ノ配合ハ概ネ三分ノ一トス但シ調教ノ進歩ト馬匹ノ状態トニヨリ約二分ノ一ニ達セシムルコトヲ得
- 三、後足旋回モ亦前足旋回ノ要領ニ準シテ行フモノトス
- 四、各個乗ハ馬ヲ孤立シテ運動セシメ且扶助ノ操作ヲ了解セシムルヲ以テ目的トス故ニ騎手ハ専心馬ノ沈靜ニシテ從順ナラムコトヲ求ムルヲ要ス
- 五、本期中時々數分間ニ亘ル伸暢速歩ヲ大運動場ニ於テ行ヒ胸腔器關ノ發達ト四肢ノ開發ヲ促スモノトス

第四期

- 一、第四期ハ六月中旬ヨリ九月中旬ニ至ル三箇月間トシ前期ノ復習ヲ爲サシメ以テ豫期ノ水勒調教ヲ完成ス
- 二、演習間取ルヘキ速度ノ配合ハ前期ニ同シ
- 三、伸暢駢歩ノ調教法ハ左ノ方法ニ據ル

伸暢駢歩



- 一、伸暢駢歩ハ約一時間普通ノ運動ヲ行ヒ然ル後大運動場ニ於テ實施シ駢歩後若干分間常歩ヲ以テ呼吸ヲ沈靜セシムルヲ要ス
- 二、伸暢駢歩ニ在テハ騎手ハ少シク自己ノ體重ヲ前軀上ニ托スル如ク騎座スルヲ要ス
- 三、伸暢駢歩ハ競走ニ流レサラムカ爲常ニ孤立シテ運動セシメ騎手ハ馬匹ノ種類、性質及營養ノ狀況等ニ依リ常ニ其ノ體力ニ注意シ過度ノ速力ヲ要求スヘカラス
- 四、伸暢駢歩ノ調教ハ概ネ左ノ標準ニ據ルモノトス

月次	區分	每週實施回数	壹分間ノ速度		毎回距離	
			馬	牝	馬	牝
自六月	中中	二	四〇〇米	乃至	四〇〇米	乃至
自七月	中中	二	五〇〇米	乃至	八〇〇	乃至
自八月	中中	二	五〇〇米	乃至	一、〇〇〇	乃至
自九月	中中	二	七〇〇米	乃至	一、〇〇〇	乃至

五、調教中教官並騎手ハ常ニ馬匹ノ能力ニ注意シ呼吸ノ回数速力其ノ他馬匹ノ狀態ヲ手簿ニ記載シ其ノ成績ヲ明カニスルモノトス

第二 繫駕調教

- 一、本調教ハ水勒調教ト相俟テ完成スルモノナリ故ニ其ノ運動及號令等ハ騎乘ニ準シテ施行スルヲ要ス
- 二、輕輓馬ノ調教ニハ速歩用車輛ヲ用キ重輓馬ニアリテハ二輪車及四輪車ヨリ成ル農用車輛又ハ櫓ヲ用ウルモノトス
- 三、調教ノ初メニアリテハ馭者ハ馬ノ側方ニアリテ誘導シ漸次輓曳ニ馴ルルニ從ヒ車上ニ在テ之ヲ使馭ス而シテ馭者ハ必要ニ應シ長鞭ヲ用ウルコトヲ得

四、總テ運動ハ運動場ニ於テ行ヒ漸次慣ルルニ從ヒ道路上ニ出テ行フコトヲ得

一 輕輓馬

一、繫駕調教ハ概ネ左表ノ如ク水勒調教ノ第三期ノ中期ヨリ開始スルモノトス

第一期(二箇月)	第二期(三箇月)	第三期(三箇月)	第四期(三箇月)
乘馬調教ニ同シ	乘馬調教ニ同シ	前期ノ復習	前期ノ復習
		前 期	前 期
		具 慣	具 慣
		輓 具	輓 具
		繫 駕	繫 駕
		繫 駕	繫 駕
		運 動	運 動
		車 輛	車 輛
		車 輛	車 輛
		常 步	常 步
		速 步	速 步
		手 前	手 前
		變 換	變 換

二、調教中取ルヘキ歩度ノ配合ハ乘馬調教ノモノヲ適用ス但シ第三期ニ於ケル歩度ノ配合ハ約一分一トシ第四期ヲ約一分二トス

三、伸暢速歩ハ乘馬調教ノ要領ニ準シ地形ノ許ス限リ時々施行スルヲ要ス

四、輓具ノ慣馴車輛ノ著脱等ニハ馬匹ヲ恐怖セシメサル様深ク注意ヲ加ヘ繫駕豫行ニ際シテハ初メハ單ニ



古馬ノ輓曳ニ隨伴セシメテ之レカ音響ニ馴ラシ次ニ轆桿觸接ノ豫習トシテ長サ二三米突ノ竹又ハ木ヲ輓鞍ニ結著シ助手ヲシテ他端ヲ馬ノ後方ヨリ把ラシメ運動間之ヲ後肢ニ觸レシムルカ如クナスヘシ

五、回轉法ハ材料ノ馬體ニ觸レサル様成ルヘク中徑ヲ大ナラシメ馬匹ノ慣ルルニ從ヒ漸次縮少スヘシ然レトモ中徑十二米突以下ニ減セサルヲ要ス

六、調教ノ完成期ニ至レハ千六百米ニ於ケル速度ヲ檢定シ其ノ成績ヲ明カニスルモノトス

二、重輓馬

- 一、調教ハ三歳ノ春季ヨリ始メ主トシテ常歩ヲ用ウ然レトモ必要ニ應シ速歩ヲ混用スルコトヲ得
- 二、調教ハ概ネ左ノ標準ニ據ル
- 三、歲

- 一、一月ヨリ六月ニ至ル六箇月間ハ車輛及輓具ニ慣馴セシメ古馬ノ側方ニ副駕シ以テ輓曳ニ馴レシム
- 二、七月以降六箇月間ハ新馬ノミヲ繫駕シ運動セシム

四、歲

繫駕シテ輓曳ニ慣ルルニ至ラハ農事ノ輕役ニ服セシム

繫駕豫馴

- 一、馬ヲ繫駕ニ馴ラスニハ先ツ車輛ニ馴レシムルヲ要ス之カ爲メ車輛ニ近接シテ熟視セシメ或ハ之ヲ嗅カシムル等ノ手段ヲ以テスヘシ馬若シ嫌忌スルトキハ靜カニ慰撫シ漸次之ニ馴レシムル如ク反覆施行スルヲ要ス然レトモ決シテ急激ナル要求ヲ爲スヘカラス
- 二、馬ヲ轆木ニ馴ラスニハ先ツ長サ二米突ニシテ轆木大ノ竹或ハ木桿ノ兩端ニ綱ヲ附シ其ノ一端ヲ輓鞍ノ轆木受ニ懸ケ他ノ一端ヲ助手ニ保持セシメ而シテ竹(木桿)ノ後端ヲ扛起シ或ハ之ヲ地上ニ置キ以テ繫駕ノ際ニ於ケル轆木ノ關係ヲ馬ニ感知セシムヘシ

- 三、前項ノ豫馴ヲ終リタル後二名ノ助手ヲシテ車輛ノ轆木ヲ執リ馬ノ後方ヨリ近接シ轆木端ヲ高舉シテ馬臀ニ向ハシメ然ル後靜カニ之ヲ下ケ轆木受ニ通ス等ノ操作ヲ反復シ充分轆木ニ親マシムルヲ要ス
- 四、又馬ヲ轆木間ニ入ルルニハ先ツ之ヲ高舉シ兩轆木間ニ對シテ馬ヲ退却セシメ然ル後轆木ヲ下ロスヘシ而シテ終ニ之ヲ高舉スルコトナク徐々退却シテ轆木間ニ入ラシムルヲ要ス馬若シ退却ヲ嫌フトキハ一旦駐立セシメ能ク慰撫シタル後之ヲ復行スル如ク注意セサルヘカラス

繫駕及脫駕

- 一、新馬既ニ繫駕豫馴ニ熟シタルトキハ先ツ空車輛ヲ用キ繫駕及脫駕ノ調教ニ移ルヘシ馬若シ繫駕ヲ嫌フトキハ豫馴ヲ復行シ然ル後再ヒ之ヲ始ムヘシ
- 二、此調教ニ際シ急躁スヘキ虞アル馬匹ノ爲メニハ調教前多少ノ運動ヲ行ヒ虛勢ヲ防ク等ノ手段ヲ施スヘシ然レトモ其ノ取扱ニ至リテハ殊ニ温和ナラサルヘカラス

輓曳豫馴

- 一、馬ヲ輓曳ニ馴ラスニハ最初ヨリ繫駕スルコトナク先ツ輓革ヲ緊張シテ之ヲ輓曳セシムヘシ其ノ法調教手ハ馬ヲ保持シ助手ヲシテ要スレハ輓革ニ概ネ二米突ノ綱ヲ繼長シ而シテ其ノ端末ヲ執リ馬ノ背後ニアリテ緊張シ且之ヲ動搖シテ肢ノ上部ヨリ漸次其ノ下部ニ觸レシムヘシ馬之ニ馴レタルトキハ輓綱ノ繼長ヲ止メ之ヲ緊張シテ漸次其ノ抵抗力ヲ增加(助手自己ノ上體ヲ後方ニシ自身ヲ曳カシムル如ク)シ馬ヲシテ行進間ニ於ケル輓曳ノ状態ニ馴レシムヘシ
- 二、馬輓革ヲ蹴ルコトナク漸次輓曳ノ意向ヲ有スルニ至レハ助手一名ニテ兩輓革ヲ執リ而シテ駐立ヨリ輓曳ニ移リ或ハ輓曳ヨリ駐立ニ移ルニ馴レシムヘシ
- 三、馬輓曳ヲ嫌ヒ駐立スルカ或ハ退却スルカ如キ場合ニアリテハ調教手ハ尙ホ前進ヲ促シ助手ハ之ヲ幫助スルニ注意スヘシ馬若シ抵抗スルトキハ之ヲ沈靜ナラシメ然ル後復行スルヲ要ス
- 四、又隅角ヲ行進スヘキトキハ外方ノ輓革ヲ稍、高クシ馬匹ノ運動ヲ容易ナラシムヘシ



運動

- 一、新馬既ニ繫駕、脱駕及轆曳ニ馴レタルトキハ先ツ之ヲ空車輛ニ繫駕シ從順ナル古馬ノ誘導ニ依リ運動ヲ始ムヘシ
- 二、新馬既ニ諸運動ニ馴レタルトキハ漸次速歩行進ヲ行ヒ得ル如ク調教スルヲ要ス
- 三、馬既ニ空車輛ヲ轆曳シテ運動スルニ馴レタルトキハ馭者ハ車上ニ在テ之ヲ使馭ス其ノ初期ニ在テハ運動ノ發起ニ際シ助手ヲシテ其ノ轆力ヲ助ケ發進ヲ容易ナラシムルニ注意セサルヘカラス

●馬匹血統書調製ノ件

明治三十九年九月二十二日馬發第二八二號  
馬政長官決裁

馬匹血統書

母	父
色毛	色毛
稱名	稱名
地產	地產
類種	類種
祖母	祖母
稱名	稱名
類種	類種
祖母	祖母
稱名	稱名
類種	類種

第一號  
特生年  
地月  
生者  
種  
毛  
馬名

右證明ス

明治 年 月 日



●馬匹臺帳ニ關スル件

明治四十年二月六日馬發第七七號  
馬政局第一部長通牒

〔明治四十四年五月九日馬政局達第六號制定ニ依リ  
民有種付牝馬臺帳及民有種付產駒臺帳廢止  
明治四十五年一月十八日馬政局達第一號制定ニ依リ  
國有種付牝馬種付簿樣式廢止〕

國有種牝馬臺帳竝民有牝馬種付ニ關スル帳簿類樣式別紙ノ通被定候條此段及通牒候也

五寸五分

年號月日	讓渡人住所氏名印	讓受人住所氏名印
一寸五分	二寸	二寸

十寸三分



































牧場生産馬、購買馬

同	三歲牝	放牧時、終牧時、年末
同	三歲牝	放牧時、終牧時、調教開始時
同	四歲牝	放牧時、終牧時、年末
同	四歲牝	調教各期末
同	五歲以上牝	種付前、年末
同	五歲以上牝	種付開始前、種付終了後
耕馬、雜役馬	五歲以上牝	三月中、十月中

十三、履歷簿還付ノ場合左ノ如シ

- 一、牧場ノ生産及育成所ノ育成ニ係ル馬匹ニシテ廢斃又ハ賣却シタルトキハ育成所ヲ經由シテ原籍場所ニ還付スルモノトス
- 一、本局ヨリ直ニ補充シタル馬匹ノ廢斃若ハ賣却セルモノハ始メテ配賦ヲ受ケタル場所ニ還付スルモノトス
- 十四、本履歷簿ハ其ノ馬匹廢斃後二十箇年間保存スルモノトス

●國有蕃殖牝馬臺帳調製ノ件

明治四十四年五月三日  
馬政局達第五號

本局  
種馬牧場

國有蕃殖牝馬臺帳別紙之通相定ム

三

購買

三

一

一







種馬牧場、種馬育成所、種馬所ニ於ケル馬匹検査内規別紙ノ通制定相成候ニ付爾今馬匹ノ検査ハ該内規ニ準據シ検査施行相成度依命此段及通牒候也

馬匹検査内規

種馬牧場、種馬育成所及種馬所ニ於ケル馬匹ノ検査ハ本内規ニ據リ施行スルモノトス

一、検査ノ目的ハ馬匹健康状態ニ關シ特ニ要スル飼養管理、資質體格ニ對スル運動調教ノ効果、疾病損傷ノ増減、裝飾法ノ適否等ヲ査閲シ之ニ對スル處置方法ヲ講究スルニアリ

二、場所長ハ毎月少クモ一回一般馬匹ノ細密検査ヲ行ヒ特ニ異狀ヲ認メタル場合ハ其ノ都度馬政長官ニ報告スルコト

但シ種付所派出中ニ於ケル種牡馬ノ検査ハ場所員出張ノ際行フモノトス

三、育馬掛又ハ種馬掛ハ場所長検査ノ外平素馬匹ノ状態ニ注意シ各馬ノ狀況ニ通曉シ置クヲ要ス

四、場所長ハ検査ノ成績ニ關シ關係職員ニ精細ノ注意ヲ與フルモノトス

五、場所長不在ノ時ハ育馬掛又ハ種馬掛中高級者代理検査ヲ行フコト

六、検査場ハ厩舎樹木又ハ建物ヲ背面トシタル長サ三間幅二間ノ平坦地ヲ中心トシ前後ニ幅二間長サ約十間ノ平坦通路ヲ具フルヲ要ス(附圖參照)

七、検査中育馬掛長(種馬掛長)ハ馬匹駐立點ノ前方數歩ノ處ニ正立シ右手ニ鞭ヲ保チ拳ヲ襟ノ高サニ上ケ以テ馬匹誘導ノ目標トナリ検査馬匹ノ名號、種類及年齢ヲ高聲ニ呼上ケ又必要ノ事項アラハ此ノ際申告スルコト

八、係員ノ内一名ハ長鞭ヲ持チテ検査官ノ反對側方ニ立ち要ニ臨テ馬ノ前進ヲ促スノ準備ヲナスコト  
九、馬ノ誘導及持方ハ左ノ方法ニヨル



●馬匹検査内規制定ノ件

明治四十四年九月二十五日馬甲第二〇六七號  
馬政局第三課長通牒

種馬牧場、種馬育成所、種馬所ニ於ケル馬匹検査内規別紙ノ通制定相成候ニ付爾今馬匹ノ検査ハ該内規ニ準據シ検査施行相成度依命此段及通牒候也

馬匹検査内規

種馬牧場、種馬育成所及種馬所ニ於ケル馬匹ノ検査ハ本内規ニ據リ施行スルモノトス

一、検査ノ目的ハ馬匹健康状態ニ關シ特ニ要スル飼養管理、資質體格ニ對スル運動調教ノ効果、疾病損徴ノ増減、裝蹄法ノ適否等ヲ査閲シ之ニ對スル處置方法ヲ講究スルニアリ

二、場所長ハ毎月少クモ一回一般馬匹ノ細密検査ヲ行ヒ特ニ異狀ヲ認メタル場合ハ其ノ都度馬政長官ニ報告スルコト

但シ種付所派出中ニ於ケル種牡馬ノ検査ハ場所員出張ノ際行フモノトス

三、育馬掛又ハ種馬掛ハ場所長検査ノ外平素馬匹ノ状態ニ注意シ各馬ノ状況ニ通曉シ置クヲ要ス

四、場所長ハ検査ノ成績ニ關シ關係職員ニ精細ノ注意ヲ與フルモノトス

五、場所長不在ノ時ハ育馬掛又ハ種馬掛中高級者代理検査ヲ行フコト

六、検査場ハ厩舎樹木又ハ建物ヲ背面トシタル長サ三間幅二間ノ平坦地ヲ中心トシ前後ニ幅二間長サ約十

間ノ平坦通路ヲ具フルヲ要ス(附圖參照)

七、検査中育馬掛長(種馬掛長)ハ馬匹駐立點ノ前方數歩ノ處ニ正立シ右手ニ鞭ヲ保チ拳ヲ襟ノ高サニ上ケ以テ馬匹誘導ノ目標トナリ検査馬匹ノ名號、種類及年齢ヲ高聲ニ呼上ケ又必要ノ事項アラハ此ノ際申告スルコト

八、係員ノ内一名ハ長鞭ヲ持チテ検査官ノ反對側方ニ立ち要ニ臨テ馬ノ前進ヲ促スノ準備ヲナスコト

九、馬ノ誘導及持方ハ左ノ方法ニヨル



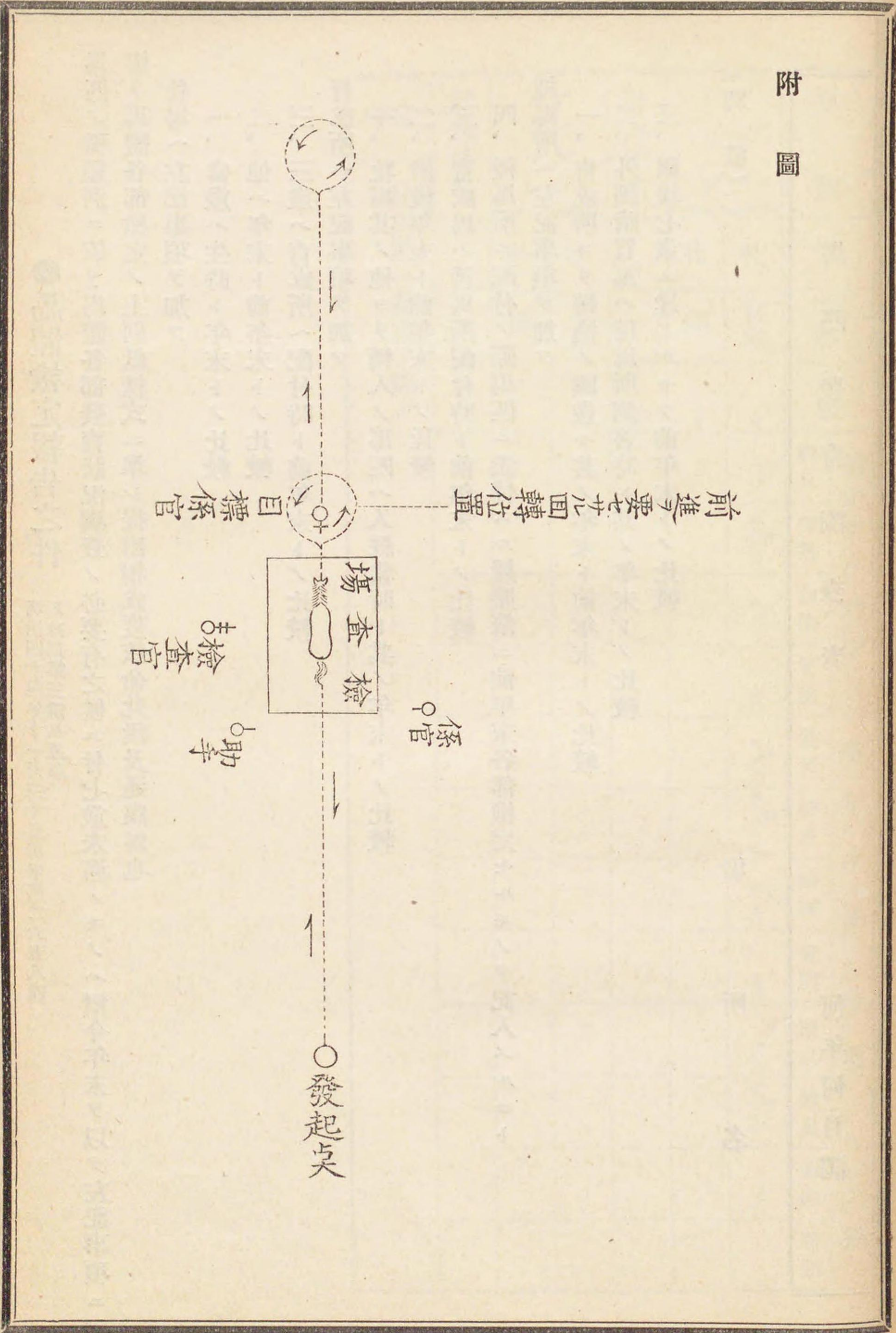
馬ニハ水勒又ハ革製頭絡(幼駒及牝駒ニハ牧士)ヲ裝シ牧手ハ馬頭ノ左後側ニアリテ馬口ヨリ約一拳ヲ隔テ食指ヲ兩韁ノ間ニ入レテ右手ニ韁ヲ握リ韁ノ端ハ之ヲ左手ニ握リ其ノ手ヲ自然ニ垂レ馬ヲ顧ルコトナク目標掛ノ鞭ヲ凝視シ馬ヲ誘ヒツツ直進ス

馬検査場ノ中央検査官ノ面前ニ至レハ牧手ハ馬ヲ駐メ馬ノ前方ニ廻リ韁ヲ兩手ニ分チ韁端ヲ右韁ト共ニ左手ノ内ニ握リ馬口ヨリ一拳ノ長サヲ隔テ拳ヲ適宜ノ高サニ上ケ馬頭ヲ保ツコト

馬ノ駐立姿勢正シカラサルトキハ韁ノ操作ニヨリテ馬體ヲ前進若ハ後退シ以テ肢勢ヲ匡正スルヲ要ス

- 十、前項検査中一名ノ牧手ハ検査ニ必要ノ器具(馬尺、鐵篋、馬糞採夏期ハ虻蠅驅除ノ爲馬毛ニテ製シタル蠅追等)ヲ準備シ馬ノ後方適宜ノ處ニアリテ舉肢其ノ他ノ助手タルヘキコト
- 十一、駐立検査終レハ歩様検査ノ爲牧手ハ初メ牽キ來リタルト同法ニテ馬ヲ前方直線ニ誘導シ豫定ノ位置(前進ヲ要セサル馬ハ其ノ位置ニテ)ニ達シタルトキハ圓形ニ廻旋シ直ニ速歩ニテ發起點ニ牽キ歸ルモノトス但シ速歩ヲ行フヘカラサル事由アルモノニアリテハ常歩ヲ用ウルコト
- 十二、未検査馬匹ハ發起點ノ外ニアリテ検査馬匹ノ復歸ト同時ニ入場スルコト

附圖





馬體檢定報告之件

明治四十四年十一月三十日馬甲第二六五八號  
馬政局第三課長通牒

馬匹ノ種類別ニ依リ馬體各部發育狀況調査ノ必要有之候ニ付七歳未満ノモノハ爾今年末ヲ以テ左記事項ニ依リ馬體各部檢定ノ上別紙様式ニ準シ提出相成度依命此段及通牒候也  
牧場ヘ左記事項ヲ加フ

- 一、當歳ハ生時ト年末トノ比較
- 二、他ハ年末ト前年末トノ比較
- 三、三歳ハ育成所ヘ配付時ト前年末トノ比較

育成所ヘ左記事項ヲ加フ

- 一、牧場其ノ他ヨリ轉入ノ馬匹ハ入厩當時ト其ノ年末トノ比較
  - 二、爾後年末ト前年末トノ比較
  - 三、育成馬ハ種馬所配付時ト前年末トノ比較
  - 四、種馬所ニ配付ノ際馬匹ニ添付スル履歷簿ニ前年末各部檢定セルモノヲ記入スルコト
- 種馬所ヘ左記事項ヲ加フ
- 一、育成所ヨリ轉換ノ四歳ハ其ノ年末ト前年末トノ比較
  - 二、外國購買馬ハ種馬所到着時ト其ノ年末トノ比較
  - 三、爾後七歳ニ達スルマテ前年末トノ比較

(別紙)

馬匹發育調査表

何年何月調  
場所名

種類	性	年齡	頭數	前年末(生時)平均				本年末平均				増差			
				體尺	體重	胸圍	管圍	體尺	體重	胸圍	管圍	體尺	體重	胸圍	管圍
レサ ツラ ドブ	牝	當歳	五	三 尺〇〇	一 五〇〇	四 尺〇〇	四 〇〇	三 尺〇〇	一 五〇〇	四 尺〇〇	四 〇〇	一 尺〇〇	二 五〇〇	五 〇〇	五
計及平均			一五												
ア ン グ ロ ノ ル マ ン	牝	二歳													
計及平均															
考備	種馬所ハ體重ヲ除ク														



第四輯 場所事業經營

雜  
則

The image shows a large, empty rectangular frame on a light-colored page. The frame is defined by a thin black border and contains no text or data. It appears to be a placeholder for a table or diagram. The page is otherwise blank, with some faint, illegible markings visible in the upper left corner.



# 場所事業經營

## ●場所事業計畫書提出例及場所業務報告例

明治四十三年九月十六日  
馬政局達第一一號

本局  
種馬牧場  
種馬育成所  
種馬所

場所事業計畫書提出例及場所業務報告例別冊ノ通相定メ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年九月七日達第二十六號種馬牧場種馬育成所種馬所事業設計書提出例及明治四十年九月十九日達第二十七號種馬牧場種馬育成所種馬所業務報告例ハ本例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別冊)

### 場所事業計畫書提出例

第一條 種馬牧場、種馬育成所及種馬所ヨリ提出スル事業ノ計畫書ハ總テ表式ニ作製スルモノトス

第二條 事業計畫書ハ庶務、育馬及耕作ノ三部ニ分ツ各部ニ屬スル表ノ種類左ノ如シ

一、庶務

新營計畫表

修繕計畫表

二、育馬

民有牝馬檢查計畫表

各場所

各場所

種馬所



民有牝馬檢査旅費計畫表  
 民有牝馬種付計畫表  
 民有牝馬種付經費計畫表  
 民有牝馬種付旅費計畫表

種 種 種 種  
 馬 馬 馬 馬  
 所 所 所 所

三、耕作

作付反別計畫表  
 種苗用量計畫表  
 肥料用量計畫表  
 收穫豫定表  
 野草收穫計畫表  
 新墾計畫表  
 植樹計畫表  
 農具新調計畫表

各 各 各 各 各 各 各 各  
 場 場 場 場 場 場 場 場  
 所 所 所 所 所 所 所 所

第三條 種馬牧場ニ於テ種馬所ノ業務ヲ施行スルトキ又ハ種馬牧場餘勢種付規程ニ依リテ餘勢種付ヲ行フ  
 場合ニ於テハ種馬所事業計畫書提出例ニ準スヘシ

(表紙)

明治何年度事業計畫書

場所名



計第一號表(用紙美濃版以下同シ)

備考	計	名	稱	坪數	構造	價			用途及必 要事由	緩急順序	位	置	新 營 計 畫 表 (明治何年度)	場 所 名
						單	價	格						

(注意) 一、附屬物ハ其ノ主物ノ次ニ一字下ケテ記スヘシ 但シ附屬物ノミノ新營ナルトキハ其ノ肩ニ何々附屬ト細書スヘシ  
 二、坪數欄ニハ建物ナルトキハ坪數ヲ記シ其ノ傍ニ桁行、梁行ヲ記シ、且厩舎ニアリテハ馬數ヲ記スヘシ、○土工物ナルトキハ延長間數其ノ他廣袤幅員等ヲ記スヘシ  
 三、構造欄ニハ何造、何葺、及平屋建、二階建等ノ別ヲ記スヘシ  
 四、緩急順序欄ニハ其ノ新營ノ要急順ニ番號ヲ附スヘシ、若シ同時要急ノモノ數廉アルトキハ同一番號ヲ附スヘシ  
 五、建物ナルトキハ其ノ略圖ヲ添ヘ且別ニ其ノ配置圖ヲ添ヘテ位置及四圍ノ關係ヲ明カナラシムヘシ

場所事業經營































場所業務報告例

- 第一條 種馬牧場、種馬育成所及種馬所業務ノ報告ハ月報、期報及年報ノ三種トシ更ニ各報ヲ庶務、育馬及耕作ノ三部ニ分ツモノトス
- 第二條 業務月報ハ一箇月間ニ施行シタル業務ヲ一括シテ其ノ翌月五日以内ニ提出スルモノトス
- 第三條 業務期報ハ時日ニ拘ラス其ノ終結シタル業務ヲ一括シテ其ノ終結後一週日以内ニ提出スルモノトス
- 第四條 業務年報ハ一月ヨリ十二月ニ至ル一箇年間ニ施行シタル業務ヲ總括シテ其ノ翌年二月末日迄ニ提出スルモノトス
- 業務上試験ヲ行ヒ又ハ特別ノ意見アルトキハ當該事項ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ
- 第五條 本例ニ規定ナキモノニシテ必要アルモノハ其ノ都度報告スルモノトス
- 第六條 業務月報、業務期報ハ單ニ表式ニ依リ業務年報ハ表式ニ業務ノ狀況及成績ノ概要又ハ説明等ヲ附記シテ報告スルモノトス
- 第七條 種馬牧場ニ於テ種馬所ノ業務ヲ施行スルトキ又ハ種馬牧場餘勢種付規程ニ依リテ餘勢種付ヲ行ヒタルトキハ種馬所業務報告例ニ準シテ之ヲ報告スヘシ
- 種馬所ニ於テ餘勢種付牝馬検査ヲ行ヒタルトキハ其ノ成績ヲ種馬所業務報告例ニ準シテ報告スヘシ
- 第八條 業務報告事項及様式左ノ如シ

業務月報

一、庶務

飼料受拂月報

二、育馬

馬匹異動月報

牧場產駒月報

各場所

各場所

各場所

各場所

病馬月報

飼料消費高月報

飼料消費區分月報

育馬傭夫使役月報

三、耕作

耕作傭夫耕馬使役月報

業務期報

一、育馬

民有牝馬検査期報

種付派遣期報

國有牝馬種付期報

民有牝馬種付期報

種付料徴收期報

二、耕作

播種期報

作況期報

收穫期報

新墾期報

各場所

種馬場所

種馬場所

種馬場所

種馬場所

各場所

各場所

各場所

各場所

業務年報

第一章 概況

一箇年間ニ於ケル業務ノ狀況ヲ前年ニ對照シ其ノ特異ノ要點ヲ記載ス



第二章 庶務

- 一、用地
  - 年第一號表(用地表)ヲ附ス
- 二、營繕
  - 年第二號表(新營表)年第三號表(修繕表)ヲ附ス
- 第三章 育馬
  - 一、頭數
    - 繫養馬匹ニ關スル一般ノ狀況ヲ記シ且年第四號表(馬匹頭數表)ヲ附ス
  - 二、管理
    - 運動、手入、削蹄其ノ他管理ニ關スル特殊ノ事項ヲ簡明ニ記載ス
  - 三、育成
    - 幼駒育成ノ方法發育ノ狀況及成績等ヲ簡明ニ記シ且年第五號表(馬匹體尺體重表)ヲ附ス
  - 四、衛生
    - 年第六號表(病馬類別表)ヲ附ス
  - 五、產駒
    - 年第七號表(產駒表)年第八號表(產駒賣却價格表)ヲ附ス
- 第四章 耕作
  - 一、耕地
    - 年第九號表(耕地反別表)ヲ附ス
  - 二、種苗
    - 年第十號表(種苗表)ヲ附ス

三、肥料

- 年第十一號表(肥料表)ヲ附ス
- 四、收穫
  - 年第十二號表(耕作損益表)ヲ附ス
- 五、傭夫、耕馬
  - 年第十三號表(耕作傭夫及耕馬使役表)ヲ附ス
- 六、農具
  - 年第十四號表(新調農具表)ヲ附ス



業務月報

一、庶務

月第一號表(用紙美濃版以下同シ)

考備	何々	何々	何々	大麥	燕麥	品目		飼料		場所名
						受	拂	受	拂	
						計	計	何々	計	
						高	高	何々	高	
									殘高	

(注意) 本表ハ物品會計官吏ノ受拂ニ關スル數量ヲ掲記スルモノトス

月第二號表

二、育馬

考備	減	増	異動馬	名種類	性	毛色	年齢	體尺	産地	役種	入厩月日	摘	要	馬匹異動月報(明治何年何月)		場所名
														馬	匹	

(注意) 一、入退厩月日欄ニハ實際入退厩シタル月日ト、手續上入退厩シタル月日(朱書)トヲ併記ス  
 二、増減ノ理由ハ摘要欄ニ略記スヘシ、但シ轉換ニ在リテハ何處ヘ轉出又ハ何處ヨリ轉入ト記スヘシ  
 三、賣却馬匹ノ價格及斃死又ハ撲殺ノ起因ハ摘要欄ニ記スヘシ  
 四、牧場生産馬ハ産駒月報ニ記載シ本表ニハ其ノ頭數ノミヲ性及種類別ニシテ備考欄ニ記スヘシ  
 五、用役變更ニ係ルモノニアリテハ其ノ馬名、性、種類及月日ヲ備考欄ニ記スヘシ







月第五號表

考	備	何	何	何	大	燕	品	飼料消費高月報(明治何年何月)		場所名			
								目			計	拂	高
								受	高				
		々	々	々	麥	麥	前月繰越	受領高	消費費返納高	殘高			

(注意) 一、本表ハ各物品取扱主任ノ受拂ニ關スル總數量ヲ掲記スルモノトス

月第六號表ノ一

類	種										別	頭數	飼料	牧場名										
	殖					蕃																		
	雜				種計	洋																		
	牡					牡	牝			牡														
	二	三	四	五	二	三	四	五	二	三	四	五	現在數	延頭數	燕	麥	大	麥	穀	鹽	何	々		
	歲	歲	歲	歲以上	當歲	歲	歲	歲	歲以上	歲	歲	歲	歲以上											

飼料消費區分月報(明治何年何月)



































業務年報

一、庶務

年第一號表 (用紙美濃版以下同シ)

用地表 (明治何年十二月末日現在) 場所名

別	種										用地總面積	區分		場所名	
	官有地	借地					地					臺帳面積	實測面積		
		國有地 <small>(他官廳所管地)</small>	御料地	縣有地	郡有地	町有地	村有地	區有地	何々	合計					
合計															

考備	不可用地	用途別							
		其他	植樹地	林地	草地	耕作地	放牧地	運動場敷地	建築物敷地

(注意)

- 一、未タ實測セサルモノハ其ノ見込面積ヲ朱書スヘシ
- 二、建物敷地區域ハ當該建物ノ存在セル爲他ノ用途ニ充ツルコト能ハサル地域ヲ標準トシテ定ムヘシ
- 三、借地ニアリテハ其ノ存續期間及借地料ヲ其ノ摘要欄ニ記スヘシ
- 四、増減ノ事由ハ摘要欄ニ記スヘシ
- 五、構内地均又ハ放牧地整理ヲ爲シタルトキハ其ノ反別金額ヲ費目別ニ摘要欄ニ記スヘシ



















年第九號表

三耕作

耕地反別表 (明治何年)

場所名

考備計	新墾地	既墾地	區分		休耕合計
			穀	作	
			穀	牧	
			草	青	
			刈	根	
			菜	試	
			作	計	

(注意) 一、新墾地欄ニハ墾成シタルモノヲ記スヘシ  
 二、耕地反別前年末ニ比較シテ増減アリシトキハ其ノ反別及理由ヲ備考欄ニ記スヘシ  
 三、反別ノ重複スルモノハ朱書スヘシ

年第一〇號表

種苗表 (明治何年)

場所名

考備計	何々	燕麥	作物	播種		數量		內		譯		摘要							
				反別	數量	生	越	高	生	產	買								
				品種數量	金額	品程數量	金額	品程數量	金額	單價	價格	品程數量	金額	單價	價格	合計	數量	金額	一反步當

(注意) 一、本表ハ其ノ年ニ收穫シタル作物ニ要シタル種苗ヲ掲記スルモノトス  
 二、兩年度ニ跨ルモノハ前年度ニ係ル分ヲ朱書スヘシ  
 三、種苗ノ品質ハ摘要欄ニ記スヘシ



備考	合計	何々	大豆	燕麥	草新播	牧舊播	作物		肥料		場所名		
							反別	施用	量			價	
									全量	過燐酸石灰		全量	過燐酸石灰
							全量	過燐酸石灰	全量	過燐酸石灰	何々	何々	價格
							歩當反	歩當反	歩當反	歩當反	歩當反	歩當反	歩當反

(注意) 一、各場所内ニテ製造シタル肥料ハ其ノ數量ヲ明カニスヘシ  
 二、本表ハ其ノ年ニ收穫シタル作物ニ要シタル肥料ヲ掲記スルモノトス  
 三、兩年度ニ跨ルモノハ前年度ニ係ル分ヲ朱書スヘシ



























年第一四號表

新調農具表 (明治何年度)

場所名

種類	員數	價格			摘要
		單價	總價	額	
プラッ					
モーター					
何々					
何々					
合計					
備考					

- (注意)
- 一、本表ハ會計年度末ニ提出スヘシ
  - 二、型式、内外國製ノ別、製造所名ヲ摘要欄ニ記スヘシ
  - 三、本局ヨリ現品配布ヲ受ケタル農具モ本表ニ掲記(朱書)スヘシ

● 傭夫使役月報ニ關スル件

明治四十四年八月八日馬甲第一八〇三號  
馬政局第三課長通牒

育馬傭夫使役月報中ノ土工補修人夫賃並耕作傭夫、耕馬使役月報中耕地整理費及作場道開鑿費記載有之候處往々内容不明ノ點有之候ニ付自今個所、間數並工程等詳細備考欄ニ記載相成度依命此段及通牒候也  
追テ兩月ニ跨ル作業ニシテ各月ニ請求セシモノハ終了セシ月ニ於テ合計ヲ備考欄ニ記入相成度申添候也

● 飼料消費區分月報ノ件

明治四十三年十二月五日馬甲第二六〇五號  
馬政局第三課長通牒

飼料消費區分月報中藁稈類ニ於テ往々食料及敷料ノ區分判然セサルモノ有之調査上差支候條自今各別ニ掲記シ各品目ノ下ニ括弧ヲ附シ食料或ハ敷料ト記入相成度依命此段及通牒候也

● 新營物位置及設計ノ件

明治四十四年七月三十一日馬甲第一七六四號  
馬政局第三課長通牒

馬政事業設備費配賦豫算内ニ於テ施設スヘキ新營物ニシテ一廉金額貳百圓未滿ノ工事ハ其ノ位置及工事ノ設計ニ付キ從來場所長ニ於テ隨意ニ決定相成居候向モ有之候處右ハ自今悉ク附近營設物トノ距離關係ヲ明示セル位置圖及圖面設計書ヲ添ヘ豫メ承認ヲ要スル義ト承知相成度依命此段及通牒候也  
追テ豫メ前文記載ノ事項ヲ具シ特ニ豫算ノ配賦ヲ受ケタル新營物ハ之カ實施ニ際シ變更ヲ生セサル限リ重テ申請ノ必要無之此段爲念申添候也



### 種付業務

#### ●種馬所種付規則

明治三十五年一月二十五日  
農商務省令第一號

- 第一條 左ニ掲ケタル資格ヲ有スル牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ種馬所ニ種付ヲ出願スルコトヲ得
- 一 年齢滿三歳以上ニシテ發育善良ナルコト
- 二 身幹四尺五寸以上ナルコト
- 但シ體格特ニ優等ナルモノハ此ノ限ニアラス
- 三 遺傳病又ハ惡癖ナキコト
- 四 體格優等性質善良體質健全ナルコト
- 前項ノ願出ヲナサントスルモノハ郡市役所ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ所轄種馬所長ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ願出アリタルトキハ種馬所長ハ牝馬ヲ検査シ種付合格證ヲ下附スヘシ此ノ種付合格證ハ一  
種付季間其ノ効力ヲ有ス
- 種付合格證ヲ有スル牝馬ニアラサレハ種付ヲ受クルコトヲ得ス
- 第三條 合格牝馬カ豫定頭數ニ達セサル場合ニ於テハ第一條第二項ノ手續ヲ經サルトキト雖種馬所長ハ牝  
馬ノ所有者又ハ管理者ノ請求ニヨリ臨時ニ之ヲ検査シ種付合格證ヲ下附スルコトヲ得
- 第四條 種付出願期日、検査及種付ノ期日及ヒ場所ハ種馬所長ノ通告ニヨリ地方長官之ヲ告示ス
- 第五條 種付ノ期日ニ種付ヲ受クルコト能ハサル理由ヲ生シタルトキハ合格牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ直  
チニ其ノ旨ヲ種付所ニ届出ヘシ
- 第六條 優等種牝馬ニ種付スルトキハ十圓以内ノ種付料ヲ徵收ス
- 前項ノ種牝馬及種付料ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ種馬所長之ヲ定ム



第七條 種付料ハ第二號書式ノ納付書ニ依リ初回種付ノ時ニ於テ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ  
 納付シタル種付料ハ之ヲ返還セス  
 種付ノ回数ハ種馬所長之ヲ定ム

第八條 左ニ掲ケタル事由ヲ生シタルトキハ種付牝馬ノ所有者又ハ讓受人ハ直ニ種馬所長ニ届出ツヘシニ  
 頭以上ノ種付牝馬ヲ所有又ハ管理スルトキハ種付合格證ノ番號ヲ届書中ニ記載スヘシ

一 出産前牝馬ヲ讓渡シタルトキハ其ノ讓受人ノ氏名住所

二 出産前牝馬斃死シタルトキハ其ノ年月日

三 出産シタルトキハ其ノ年月日及産駒ノ性毛色並出産ノ時ニ於ケル身幹

四 流産シタルトキハ其ノ年月日

五 受胎セサルコトヲ確認シタルトキハ其ノ事由

六 産駒ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價額、讓渡ノ時ニ於ケル身幹及ヒ讓渡受人ノ氏名住所又ハ

糶場ノ名稱

七 産駒斃死シタルトキハ其ノ年月日

第九條 種付牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ産駒血統證ノ下付ヲ種馬所長ヘ出願スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ種馬所長ハ種付合格證ノ効力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

一 牝馬ノ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ種付ニ害アリト認メタルトキ

二 指定ノ種付馬ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ

三 當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

四 種付料ヲ納付セサルトキ

第十一條 種付馬ノ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ種付スルコト能ハサルトキハ種馬所長ハ指定シタル種付馬ヲ

變更シ又ハ種付ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 第八條ノ届出ヲナササル者、第十條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事由ニ因リ種付合格證ノ効力

ヲ取消サレタル者又ハ種付牝馬若ハ産駒ノ飼養管理ヲ怠リタル者ニハ次年ノ種付ヲ許可セサルコトアル

ヘシ

第十三條 本則ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ民有牝馬ニ種付ヲナス場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本則施行前明治三十五年種付合格證ハ本則ニ依ル種付合格證ト看做ス

第一號書式

種付願

一 牝馬 一頭

種類 毛色 年齢 身幹

産地 父母系統

右貴所種牝馬種付相願候也

縣(市) 町(村) 字 番地

年 月 日

所有者 氏 名 印

何種馬所長氏名殿

(備考)

特ニ管理者ヲ定メタル場合ハ其ノ住所氏名ヲ竝記スヘシ

第二號書式



種付料納付書

一金 圓 種付料納付書 指種付合格馬證第 號種付料

收入印紙

右納付致候也

年 月 日 縣 郡(市) 町(村) 字 番 地 所有者(又ハ管理者) 氏 名 印 何種馬所長氏名殿

種馬所種付料納付手續ノ件

明治三十五年農商務省令第一號種馬所種付規則第七條ノ種付料納付書ハ之ヲ種付所ニ差出スヘシ 種付所前項ノ納付書ヲ收受シタルトキハ主任者ニ於テ其ノ適法ナルコトヲ確認シタル後納付書ノ紙面ト貼 付印紙ノ彩綾トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ消印ヲ捺捺スヘシ 但納付者ニ於テ既ニ消印ヲ捺捺シタル場合ハ此ノ限ニアラス 前二項ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ餘勢種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

種牡牛馬種付料ニ關スル件

明治三十九年五月十二日 勅令第一〇四號 改正(明治四十三年五月三十一日 勅令第二五五號) 種馬所、種馬牧場、種牛所及種畜牧場ノ保管ニ屬スル種牡牛馬ノ種付ヲ受クル者ハ種付料ヲ納付スヘシ但シ 國又ハ公共團體ニ於テ種付ヲ受クルトキハ此ノ限ニアラス 種付料ヲ納付スヘキ種牡牛馬及其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム 種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種馬牧場餘勢種付規程

種馬牧場餘勢種付規程別紙ノ通相定ム (別紙)

種馬牧場餘勢種付規程 第一條 種馬牧場ノ種牡馬ニ餘勢アルトキハ民有牝馬ニ種付スルコトヲ得 第二條 餘勢種付ヲ行フトキハ種馬牧場長ハ種牡馬及之ニ交配スヘキ民有牝馬ノ頭數、種類等ヲ定メ餘勢

本局 種馬牧場 種馬育成所



種付出願書類ヲ添ヘテ之ヲ當該管區ノ種馬所長ニ通報スヘシ  
 第三條 前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ種馬所長ハ種馬所牡馬ノ種付牡馬検査ト同時ニ検査ヲ行ヒ餘勢種付ヲ行フヘキ民有牝馬ヲ撰定シ之ヲ種馬牧場長ニ回報スヘシ  
 種馬所ノ設置ナキ地方ニ在リテハ種馬牧場長ハ種馬牧場所所在地ニ於テ又ハ出張シテ前項ノ検査ヲ行フモノトス

第四條 餘勢種付ハ種馬牧場所所在地ニ於テ種馬牧場長之ヲ行フモノトス但シ種馬所ノ設置ナキ地方ニ在リテハ出張種付ヲ行フコトヲ得

第五條 餘勢種付出願者ノ名簿ハ種馬牧場長之ヲ保管スルモノトス  
 第六條 前各條ノ外種馬所種付規則第十三條ニ依ルヘシ

●餘勢種付ニ關スル件

明治四十二年二月二十七日馬受第四七八號ノ一  
 馬政局第一部長ヨリ奧羽種馬牧場長ヘ通牒

本月十九日上申第八號ヲ以テ餘勢種付ノ義ニ關シ上申相成候處右規程ハ各場所長職務ノ本分ニ照シ且民有種付牝馬検査ノ統一ヲ期スル爲今回制定相成候次第ニ付上申ノ件ハ承認難相成候就テハ左記各項御了承ノ上實施相成候様致度依命此段及通牒候也

記

- 一、餘勢種付ヲ爲ス場合ニ於テ種馬所種付規則第四條ノ手續ハ貴場ニ於テ必要ト認メラルル地方廳ノミニ對シテ履行相成度且牝馬検査ノ期日及場所ハ關係種馬所ノ牝馬検査ト同一ナル旨ヲ指示相成度候
- 二、種付牝馬ノ撰定ニ關シ骨格其ノ他特ニ注意ヲ要スヘキ事項ハ豫メ當該種馬所長ヘ御通報相成度候
- 三、種馬所長ノ撰定シタル合格牝馬ハ種馬所種付規則第十條ニ依ルノ外之ヲ取捨スルコトヲ得サル義ニ候得共種牡馬ノ配合ハ貴場ニ於テ適宜御決定相成義ニ有之候
- 四、牝馬検査ノ際種馬所長ノ下附スル種馬合格證ニハ指定種牡馬及種付料ヲ記入セスシテ之ヲ下附スル次

第二付其ノ配合御決定ノ際貴場ニ於テ之ヲ記入相成度候

今般種馬牧場餘勢種付規程御達相成候ニ付テハ其ノ實施手續、左記ノ通り奧羽種馬牧場長ヘ通牒相成候條此旨御了承ノ上御施行相成度依命此段及通牒候也

記

(奧羽種馬牧場長宛通牒ト同文ニ付略ス)

●種馬牧場餘勢種付産駒血統書交付ノ件

明治四十二年四月十三日馬受第九四五號ノ一  
 馬政局第一部長ヨリ奧羽種馬牧場長ヘ回答

奧發第一一八號ヲ以テ餘勢種付産駒血統書交付方ノ義ニ付御照會相成候處御申出ノ如ク種付産駒ハ貴場ヘ牽付検査ヲ爲スニアラサレハ一切血統書交付セサル趣旨ニテハ遠隔ノ地ニ在ルモノニ對シ實際行ヒ得ヘカラサルコトト存候就テハ毎年一回時期ヲ定メテ血統書交付ノ出願ヲ爲サシメ其ノ出願ニ依リ検査地及日割ヲ定メ出張検査ノ上交付方御取計相成候様致度尤モ本件ハ其ノ期ニ臨ミ出張検査計畫書ヲ作り伺出相成度依命此段及回答候也

●種付所ニ關スル注意ノ件

明治四十三年三月十四日馬甲第三六四號  
 馬政次長通牒

各種付所ニ於ケル經費ニシテ種馬所支辨ノ外厩舎料、手傳人夫等ノ必要費以外尙ホ各種付牝馬所有者ノ負擔スル諸經費アリテ世話人若ハ組合等ニテ之ヲ徴收シ而カモ其額往々少ナカラサルモノアルヤニ相聞ヘ候











考 備	駒		毛 色	特 徵
	血統番 番 號	種 類		
	第			
	號			
	交 付 年 月 日			
	年 月 日			
	受 領 者 住 所 氏 名			

(注意)

一、體格欄ニハ馬格ヲ上中下ノ三等ニ區分シ且ツ著シキ美點ト缺點トヲ記入スルモノトス  
 二、備考欄ニハ種付合格證注意第四ノ内第三項ヲ除キタル事項ヲ記入スルモノトス

● 國有種牡馬種付簿樣式

明治四十五年一月十八日  
馬政局達第一號

種 馬 牧 場  
種 馬 所

國有種牡馬種付簿樣式別紙之通相定ム

(甲紙美濃紙兩面刷)

番 合 格 號	種 類	毛 色	年 齡	體 格	體 尺	特 徵	產 地	血 統	種 付 日	摘 要	所 有 者 ( 又 ) 管 理 者 住 所 氏 名







### 耕作及飼料

#### ●作付圖添付ノ件

明治四十一年六月十九日  
馬政局達第一三號

本局  
種馬牧場  
種馬育成所  
種馬所

明治四十年九月七日達第二六號事業設計書作付計畫表及同年同月十九日達第二七號事業報告書ニ作付圖ヲ添付スヘシ

#### ●作付圖添付ニ關シ耕作物色別ノ件

明治四十一年六月十九日馬發第四九〇號  
馬政局第一部長通牒

客年九月達第二六號及同第二七號ニ依リ提出可相成事業設計書及事業報告ニ作付圖添付方御達相成候處其ノ耕作物色別ハ左記ノ通り御承知相成度此段及御通知候也

記

- 一 牧草
- 一 燕麥
- 一 大豆
- 一 玉蜀黍
- 一 燕麥青刈

綠 青 紫 黃 樺  
青地黑斜線

耕作及飼料



一大豆青刈  
一稗青刈  
一根菜

黃地黒斜線  
黒  
赤

●耕作物種類ノ件

明治四十一年三月五日  
馬政局達第四號

本局馬育場所  
種馬育場所  
種馬育場所

耕作物種類左ノ通り定ム

一燕 麥

牧草

但輪換作トシテ大豆、玉蜀黍ヲ用ヒ又大麥、稗、胡蘿蔔、甘藷ヲ加フルコトヲ得

●農具ノ種類及其ノ定數ノ件

明治四十一年三月五日  
馬政局達第三號

本局馬育場所  
種馬育場所  
種馬育場所

農具ノ種類及其ノ定數別紙ノ通り定ム

(別紙)

農具ノ種類及定數表

種類	耕作地				
	五步以下	百步以下	二百以下	三百以下	四百以下
チルド、プラウ	二	二	二	二	二
ソルキー、プラウ	二	二	三	三	四
リザアーシヅル、ヂスクプラウ	一	二	四	五	七
セクリタリーヂスクプラウ	一	二	三	三	三
シヤブルプラウ	二	三	四	五	五
ヂスクハロー	一	二	三	五	五
スチール、ツースバーロー	二	三	三	四	五
クロットクランシヤ	一	二	三	五	六
ローラ	一	一	二	三	四
ハンド、シードソウアー	一	一	二	二	二
フアーチライザードリル		八列一	十列一	十列三	十列三
カルチヴエーター	二	二	三	四	五











●青草給與ノ件

明治四十四年八月十七日馬甲第一、八五八號  
馬政局第三課長及會計課長通牒

馬匹ニ給與スル青草ニ關シテハ四十二年一月書記會議ニ於テ物品出納簿ニ登記セサルコトニ決定相成候處該給與量ニ付テハ他ノ馬糧ト共ニ調査ノ必要有之候ニ付爾今馬糧消費區分月報ニ記入スルコトトシ同刈取傭夫賃ハ傭夫使役月報ニ青草刈取ノ欄ヲ設ケ明記相成度依命此段及通牒候也  
追テ青草ノ受拂ニ關シテハ當該掛ニ於テ別ニ帳簿ヲ設ケ整理相成度申添候

●場所馬糧取扱規程

明治四十四年九月一日  
馬政局達第一〇號

本局  
種馬牧場  
種馬育成所  
種馬所

場所馬糧取扱規程別冊ノ通相定メ明治四十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別冊)

場所馬糧取扱規程

第一章 總則

第一條 場所ニ於ケル購買馬糧、收穫品ノ授受及保管ノ方法ハ別ニ規程アルモノノ外本規程ニ據リ取扱フヘシ

第二章 購買品

第二條 購買馬糧ノ授受ニ付テハ場所長ハ物品會計官吏、育馬掛長(種馬所へ種馬掛長以下之ニ倣フ)ヲ立會ハセ現品ノ検査及授受ヲナスモノトス

第三條 穀菽類及食鹽ハ俵數、藁稈類及根菜類ハ把數ニヨリ逐一點檢シテ總員數ヲ計算シ包裝不適當ニシ

テ保存上害アルモノハ改装セシムルコトアルヘシ

第四條 品質検査ハ穀菽類ハ每俵ニ刺子入ヲナシ結實、乾燥、精撰、色澤、粒形、量目等總テ標品ニ適合スルヤ否ヤヲ検査スルモノトス

藁稈類ハ每束把ニ付標品ニ適合スルヤ否ヤヲ檢シ尙検査官及立會員ハ適宜ノ束把ニ付特ニ結束ヲ解キ内容ヲ細檢スルモノトス

食鹽其ノ他ノ品質検査ニ付テハ適宜之ヲ行フモノトス

第五條 量目ノ検査ヲ爲スヘキ俵及束把ハ左ノ標準ニ依リ抽出スモノトシ抽出ノ方法ハ場所長立會員ト協議シ臨機之ヲ定メ尙必要ニヨリ抽出ノ員數ハ増減スルコトヲ得

但シ必要ト認メタル場合ハ全部秤量スルモノトス

一、穀菽類及食鹽  
總俵數ノ五歩乃至一割トシ其數二十俵ニ充タサルトキハ之ヲ二十俵トス

二、藁稈類及根菜類  
總束把ノ一割乃至二割

第六條 量目ノ検査ハ每俵及每束把ニ付秤量ノ上風袋ヲ除キタル平均量目ヲ總俵數又ハ總束把數ニ乘シテ數量目ヲ計算スルモノトス

第七條 場所長不在ノトキハ別ニ定ムル處ニ據リ場所長代理者検査ノ責ニ任ス但シ場所長歸著ノトキ代理者ヨリ其ノ旨報告スルモノトス

第八條 立會員中不在者アルトキハ他ノ場所員ヲシテ立會ハシム

第九條 検査ノ結果不合格品アリタルトキハ遲滞ナク供給者ヲシテ用地外ニ搬出セシメ如何ナル名義ヲ以テスルモ用地内ニ貯藏堆積シ置クヲ許サス

第十條 検査官ハ別紙第一號様式ニヨリ検査成績書ヲ調製スルモノトス



第三章 收穫品

- 第十一條 收穫物ノ授受ニ付テハ場所長ハ物品會計官吏、育馬掛長及耕作掛長ヲ立會ハセ現品ヲ検査シ授受ヲナスモノトス
- 第十二條 總テ收穫品ハ引繼前場所長及立會員ニ於テ乾燥、精撰等引繼上完全ナルヤ否ヤヲ調査シ尙各種毎ニ品質ニ從ヒ上、中、下ノ三等ニ區分シ評價ヲ付スヘシ
- 第十三條 收穫品ハ引繼前耕作係ニ於テ穀菽類ハ俵裝シ藁稈類ハ壓搾若ハ結束スルモノトス
- 第十四條 第三條乃至第八條ノ規程ハ本章ニ之ヲ準用ス
- 第十五條 收穫品ニシテ検査ノ結果馬糧トシテ品質不適當ナリト認メタルモノアルトキハ相當處分ノ手續ヲ履ムモノトス
- 第十六條 検査官ハ別紙第二號様式ニ依リ検査成績書ヲ調製スルモノトス
- 第四章 馬糧在庫品保管
  - 第十七條 馬糧ハ物品會計官吏ニ於テ倉庫内ニアルト堆積シアルトニ拘ラス購買品ト收穫品ト分類ヲ明カニスル爲メ常ニ現在ノ數量ヲ札ヲ以テ其ノ位置ニ揭示シ且別ニ其位置及數量ヲ記載セル馬糧保管明細簿ヲ備ヘ彼此混同セサル様確實ニ保管スルヲ要ス
  - 同一倉庫内ニ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ保管馬糧アルトキハ札ヲ以テ其ノ數量ヲ揭示シ常ニ其ノ分界ヲ明瞭ニシ置クヘシ
  - 第十八條 場所長ハ購買又ハ收穫牧草、乾草及藁類ニシテ敷料ニ用ウルモノト食用ニ供スルモノトヲ區分シ明瞭ニ整理シ置カシムヘシ
  - 第十九條 物品會計官吏ハ自己ノ保管ニ係ル馬糧ノ狀況ヲ明瞭ナラシムルタメ毎月末ニ於テ別紙第三號様式ニ依リ購買品收穫品各別ニ馬糧在庫品保管表ヲ調製シ翌月三日迄ニ場所長ニ報告スルモノトス
- 第五章 馬糧ノ拂渡

- 第二十條 馬糧ハ育馬掛、耕作掛各物品取扱主任ニ於テ約十日間ノ所要ヲ見積リ物品會計官吏ヨリ之ヲ受領スルモノトス但シ一容器又ハ一堆積全部ヲ受領スルノ必要アル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第二十一條 場所長ハ育馬掛ノ人員ニ應シ二厩舎乃至五厩舎毎ニ馬糧主任ヲ置キ物品取扱主任ヨリ三日乃至五日分ノ馬糧ヲ受領セシメ該主任（以下馬糧主任ノ任務ハ耕作掛ニ於テハ物品取扱主任自ラ之ヲ行フモノトス）ハ更ニ之ヲ厩舎付主任牧手（耕作掛ニ於テハ主任耕手以下之ニ倣フ）ニ毎日其ノ當日ノ夕飼ヨリ翌日ノ晝飼ニ至ル數量ヲ交付スルモノトス但シ臨時増加ヲ要スル場合ハ其ノ都度交付シ尙減飼ノタメ殘餘ヲ生シタルトキハ馬糧主任之ヲ検査シ翌日分ノ所要トシテ繰越使用セシムルモノトス
- 第二十二條 物品取扱主任及馬糧主任自己ノ保管ニ係ル馬糧ハ厩舎内穀物庫其ノ他適宜ノ場所ヲ定メ嚴重ニ保管シ置クヘシ但シ馬糧主任ハ自己保管馬糧ノ出納ヲ明ニスルタメ馬糧受拂簿ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ記入スルヲ要ス
- 第二十三條 場所長ハ毎月一回物品會計官吏、物品取扱主任、馬糧主任及厩舎主任牧手ノ保管セル馬糧ヲ検査シ其ノ狀況ヲ別紙第四號様式ニ依リ検査施行後三日以内ニ長官ニ報告スルモノトス
- 第二十四條 穀物庫ノ鍵ハ物品會計官吏之ヲ保管シ夜中ハ宿直員ニ托シ置キ確實ナル保管ヲナスヲ要ス
- 第二十五條 物品取扱主任、馬糧主任及厩舎主任牧手ハ自己保管ニ係ル馬糧格納庫及穀物箱ニ用ウル鍵ハ各自之ヲ保管スルモノトス
- 第二十六條 糧秣廠ヨリ交付スル馬糧ハ輸送請負契約書ニヨリ之ヲ受領スルモノトス

購買燕麥検査成績書

一 燕麥	貫	總俵數	供給者	何	某	平均量目
------	---	-----	-----	---	---	------











平均計	四	檢查狀況	右ノ通	明治	年	月	日
			檢查官吏	場所長	何	某	印

樣式第二號ノ一

第 一 回收穫牧草引繼檢查成績書 (等級別ニ調製)

此評價格金何圓	貫	總束把	把	平均量目
計量檢查	束	把	皆	掛
三	三	四		

檢查立會員

物品會計官吏

書記

何

某

印

何掛長又ハ何掛員

技手

何

某

印

同

雇

何

某

印



平均	計	檢查狀況	右ノ通	明治	年	月	日
				檢查官吏	場所長	何	某
				檢查立會員			
				物品會計官吏	書記	何	某
				何掛長又ハ何掛員	技手	何	某

樣式第三號

月分馬糧在庫品保管表

穀 菽 類 (格納庫毎ニ掲出)

物品會計官吏 印

種類	格納庫名稱	前月繰越	納	拂	殘	摘	要
		本月中受	量				
藁 稈 類							

同 雇 何 某 印



屋內格納 (格納庫毎ニ掲出)

種類	格納庫名稱	格納		計量	拂	殘	摘	要
		前月繰越	本月中受					

屋外堆積 (一堆積毎ニ掲出)

種類	堆積ノ位置番號	堆積		計量	拂	殘	摘	要
		前月繰越	本月中受					

樣式第四號

月分馬糧現品檢查成績報告書

明治 年 月 日

檢查官吏

場所長

何

某

印

馬政長官宛

月分馬糧現品檢查成績左ノ通及報告候也

物品會計官吏書記 何某ノ保管

一 檢查施行ノ期日

二 諸帳簿ト現在品ノ數量符合スルヤ否ヤ

耕作及飼料



三 保管ノ方法ハ規程ニ違反スルコトナキヤ且格納法ハ保存上適當ナルヤ否ヤ

物品取扱主任技手何某ノ保管

一、二、三項共前ニ同シ

馬糧主任技手何某ノ保管

一、二、三項共前ニ同シ

何厩主任牧手何某ノ保管

一 検査施行ノ時日

二 現在品ハ次回ノ飼付ヲ爲スヘキ所要量ニ對シ不足ナキヤ否ヤ尙剩餘ヲ生スルトキハ其ノ理由

三 保管ノ方法確實ナルヤ否ヤ

何厩主任牧手何某ノ保管

一、二、三項共前ニ同シ

注意

一 検査施行未済ノモノアルトキハ其ノ保管者ノ官氏名ヲ付記シ又全部終了ノ際ハ其ノ旨記載スルコト

●場所馬糧取扱規程ニ關スル件

明治四十四年九月二十五日馬甲第二一四五號  
馬政局第三課長通牒

先般御達相成候場所馬糧取扱規程到著前既ニ收穫品ノ授受ヲ了シタル向モ有之候趣右ニ付テハ此ノ際更ニ規程第十三條ヲ適用スルノ必要無之尙左記各項御承知相成度依命此段及通牒候也

記

- 一 購買馬糧及收穫品ニシテ連日授受ヲ行フ場合ニ於テ規定第十條及第十六條ノ検査成績様式變更方申出ノ向アルモ右ハ規程ノ通毎日調製スルモノトス
- 但シ此ノ場合ハ物品出納簿ニ毎日登記スルヲ要ス
- 二 馬糧主任ハ從來物品取扱主任ノ作成シタル馬糧日計表ヲ調製シ毎日消費高ヲ記載シ月末ニ於テ馬糧受拂精算書ヲ作り翌月二日迄ニ馬糧月計表ヲ添へ物品取扱主任ニ報告スルモノトス



- 但シ馬糧日計表ニ記載スヘキ日量ハ當日ノ夕飼ヨリ翌日ノ晝飼迄トス
- 三 月末及年度末ニ於テハ當日ノ夕飼ノミヲ交付スルモノトス
- 四 耕馬ノ馬糧ハ育馬掛馬糧主任ニ取扱ハセ度希望ノ向アルモ右ハ當然規程第二十一條ニ依リ取扱フモノトス
- 五 馬糧主任ヲ任免シタルトキハ其都度馬政長官ニ報告スルモノトス

● 藁稈類用途區分ノ件

明治四十四年九月二日馬甲第一九〇八號  
馬政局第三課長及會計課長通牒

馬糧用野乾草其ノ他藁稈類ニ關スル總テノ書類ニシテ往々用途ノ區別明瞭ナラサルモノ有之處理上差支候ニ付自今一切食料敷料ノ各區分ヲ明記サレ度此段及通牒候也  
追テ牧草青刈類ニシテ品質其ノ他ノ關係ニ依リ之ヲ敷料ニ使用セントスル場合ハ豫メ認可ヲ受クル義ト承知相成度

雜 則

● 傭人作業日計簿外三點樣式及圖式ノ件

明治四十年三月二日馬發第一三四號  
馬政局第一部長通牒

左記ノ諸表及備品樣式圖式左記ノ通被定候間此段及通牒候也

- 一 傭人作業日計簿
- 一 飼料表、備付物品表、牧夫日課表用掛板
- 一 馬名札
- 一 飼槽

(四十二年三月二日、馬發第一三四號)以下三件同シ

何月中傭人作業日計簿ノ一

(育馬掛)

日	事業類別		何々		計		主任者印
	人員	賃金	人員	賃金	人員	賃金	
一							
二							
三							
四							
五							











種	雜	種	洋	馬		飼料	飼料
				匹	料		
(何)	(何)	(何)	(何)	牡五歲以上	牡四歲	燕麥	表 (第 號厩)
				牡四歲	牡三歲	穀	
						乾草	
						藁	
						(何)食鹽摘要	

二尺

三尺

品目	員數	摘	要	乘鞍	
				ホーク	(何)
				(何)	(何)

一尺五寸

三尺

牧夫日課表 (第 號厩)

時限	課業	摘	要

一尺五寸

二尺五寸

備考

地質ハ黒塗ニシテ朱線ヲ畫キ白字ヲ以テ記載ス



馬名札

一六三二號

ザプロマツト

サラブレッド種 英國産

---

明治三十年四月生

體尺五尺壹寸貳分

父 サラブレッド種セントサイモン

母 サラブレッド種メーア

備考

- 一、縦壹尺參寸、横六寸
- 二、地質白色ニシテ周圍及中央赤線トス

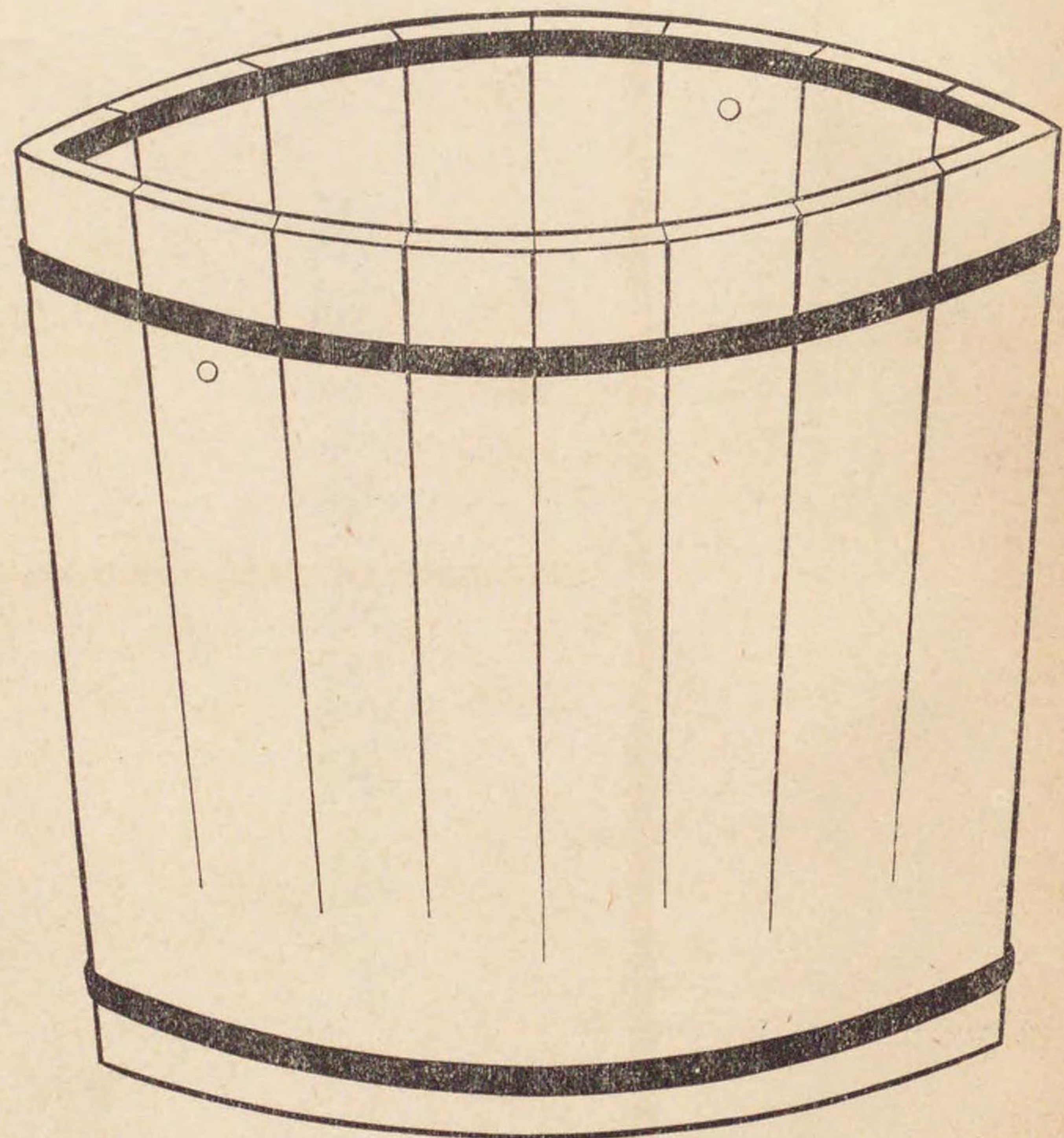
備考

飼槽

内徑 口徑一尺三寸 底徑一尺二寸 高一尺二寸

篋 厚一分 幅八分 内外三通リ

櫪 厚六分乃至七分

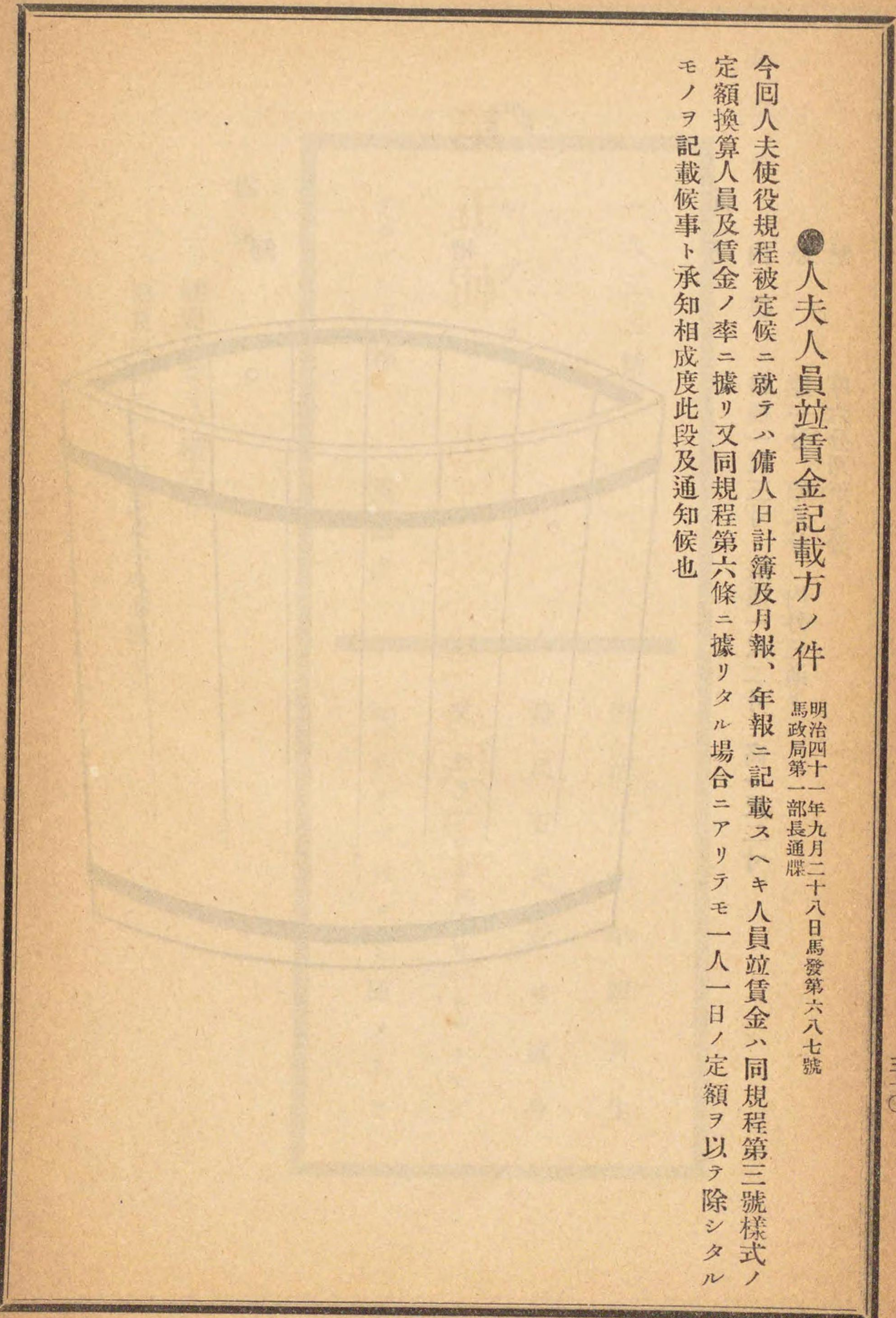




● 人夫人員並賃金記載方ノ件

明治四十一年九月二十八日馬發第六八七號  
馬政局第一部長通牒

今回人夫使役規程被定候ニ就テハ傭人日計簿及月報、年報ニ記載スヘキ人員並賃金ハ同規程第三號様式ノ定額換算人員及賃金ノ率ニ據リ又同規程第六條ニ據リタル場合ニアリテモ一人一日ノ定額ヲ以テ除シタルモノヲ記載候事ト承知相成度此段及通知候也



第五輯

馬匹去勢及馬匹衛生



# 馬匹去勢及馬匹衛生

## ● 馬 匹 去 勢 法

明治三十四年四月二日  
法律第二二號

第一條 牡馬ニハ去勢ヲ行フ但シ種牡馬ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 牡馬ニシテ種牡馬タルヘキ資質アリト認めタルモノニハ頭數ヲ限り去勢ノ施行ヲ猶豫ス  
疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認めタルモノ若ハ學術研究ノ爲メ行政官廳ノ許可ヲ得タルモノニハ去勢ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三條 牡馬ノ去勢年齡ハ明ケ三歳トス

去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢年齡ニ拘ラス去勢ヲ施行ス但シ明ケ十五歳以上ノモノハ此ノ限リニ在ラス

一 去勢ノ施行ヲ猶豫シ其ノ他已ムヲ得スシテ去勢ヲ施行スルコトヲ得サリシ牡馬ニシテ其ノ事由消滅シタルモノ

二 去勢年齡ヲ經過シタル牡馬ニシテ本法施行後本法ヲ施行セサル島嶼ヨリ牽キ入レ又ハ外國ヨリ輸入シタルモノ

三 本法施行ノ際去勢年齡ヲ經過シタルモノヲ除クノ外種牡馬ニシテ検査合格ノ證明ノ効力ヲ失ヒタルモノ

第五條 牡馬ニシテ去勢施行ノ爲メ斃死シ又ハ從來ノ用途ヲ變更若ハ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ償金ヲ與フヘシ

第六條 去勢施行ノ費用ニ關スル規定並前條償金ノ査定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



第七條 牡馬ノ去勢ノ施行ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ施行セス

馬匹去勢術練習生規則

明治三十五年二月二十二日  
農商務省令第二號

第一條 馬匹去勢術練習生ハ年齡滿十八歲以上四十歲以下ニシテ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者ヨリ試験ノ上採用スルモノトス

第二條 練習生ノ募集及ヒ試験ニ關スル手續ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム

試驗ニ依リテ採用スヘキ人員、試験ノ期日及ヒ場所ハ地方長官之ヲ公告ス

第三條 練習生ヲ志願スル者ハ制規ノ願書ニ履歷書、獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ證明スルニ足ル書面及ヒ醫師ノ體格檢定書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 練習生ハ軍馬補充部ニ委託シテ修業セシム

修業期ハ毎年春夏ノ交二箇月ヲ一期トシ二期ヲ以テ了ハルモノトス但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルハシ

第五條 練習生ニハ修業期中一箇月金二十圓以内ノ手當ヲ支給ス但シ旅費ハ之ヲ支給セス

第六條 練習生規則命令ニ違背シ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ免スヘシ

第七條 練習生修業ヲ了ヘタルトキハ其ノ成績ヲ考查シ修業證書ヲ交付スヘシ

第八條 練習生ハ修業證書ヲ受ケタル後三年間農商務大臣ノ指定スル所ニ從ヒ去勢技術者トシテ奉職スル義務ヲ有ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ修業期中支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

一、修業中自己ノ便宜ニ依リ練習生ヲ辭シタルトキ  
二、第六條ニ依リ練習生ヲ免セラレタルトキ  
三、第八條ノ義務ヲ履行セサルトキ  
四、奉職義務年限中懲戒ニ由リ免官又ハ免職セラレタルトキ

去勢獎勵費及癩馬斃馬ニ對スル損失手當ノ件

明治四十年三月三十一日  
閣令第三號

明ケ三歲又ハ明ケ四歲ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ所有者ニハ每

一頭獎勵金四圓ヲ下付スヘシ

前項馬匹ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ癩疾トナリタルトキハ其ノ所有者ニ金五十圓以内ノ損失手當ヲ下

付スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年農商務省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

馬匹去勢獎勵方法ノ件

明治四十年四月九日馬發第二六三號  
馬政長官通牒

明治三十九年農商務省令第十三號馬匹去勢獎勵金下付ニ關スル規定今般閣令第三號ヲ以テ改正相成候ニ付テハ其ノ施行方法ハ別紙要領ニ基キ地方ノ狀況ニ應シ便宜規定ヲ設ケ御施行相成度此段及通牒候也

去勢施行方法要領

一、馬匹ハ技術員ヲシテ検査セシメ種牡馬ノ資格アリト認ムルモノ又ハ虛弱ナルモノハ去勢ヲ施行セサルコト

二、施術ハ馬匹去勢術ノ練習ヲ受ケ修業證書ヲ有スル者若ハ之ト同等以上ノ技能ヲ有スル者ニシテ地方長



官ノ指定シタルモノニ之ヲ爲サシムルコト  
 三、成ルヘク一町村若ハ數町村ヲ畫シ關係産馬組合、農會其ノ他適當ト認ムル團體ヲシテ去勢施行ニ任セシムルコト  
 四、適當ノ技術員ナキ場所又ハ馬匹ノ集合ニ便ナラサル場所ニアリテハ地方廳若ハ團體ヨリ技術員ヲ派遣シ去勢セシムルコト  
 五、去勢技術者ヲシテ去勢施行ノ都度去勢馬匹ノ郡市町村別頭數表及所有者住所氏名表ヲ製シ郡市長ヲ經テ之ヲ地方廳ニ報告セシムルコト  
 六、施行ニ要スル費用ハ成ルヘク之ヲ節約スル爲概ネ左ノ方法ニ依ラシムルコト  
 一、去勢所ハ約方三里以内ニ一箇所トシ交通ニ便ナル場所ヲ選定セシムルコト  
 一、厩舎ハ便宜ノ建物ヲ充用シ止ムナクハ假設セシムルコト  
 一、全癒ニ至ラサルモ技術員ニ於テ危険ナシト認ムルモノハ牽返ラシムルコト  
 一、飼養及往復ニ要スル費用ハ所有者ノ自辨トスルコト  
 七、獎勵金ヲ下付スヘキ馬匹ノ頭數ハ豫メ郡市長又ハ去勢施行ノ團體ヲシテ地方廳ニ申報セシムルコト  
 八、去勢ヲ終リタルトキハ馬匹ノ所有者又ハ代理人ヲシテ去勢施行ヲ擔當シタル團體及技術員ノ證明書ヲ添ヘ獎勵金ノ下付ヲ地方廳ニ請求セシムルコト  
 但シ團體ニ依ラサルモノハ技術員ノ外郡市長ヲシテ之ヲ證明セシムルコト  
 九、地方長官ハ獎勵金ヲ下付スヘキ馬匹ノ概數ヲ豫メ馬政長官ニ報告シ去勢ヲ終リタルトキハ更ニ去勢馬匹ノ郡市町村別頭數表及去勢施行ノ狀況報告書ヲ製シ提出セララルルコト  
 十、閉令第三號第二項ニ該當スル馬匹アルトキハ地方長官ニ於テ左記書式ニ依リ評價員三名以上ノ馬匹評價書並技術員ノ斃(廢)馬鑑定書ヲ徵シ左記標準率ニ基キ相當金額査定ノ上關係書類ヲ添附シ馬政長官ニ具申セララルルコト

斃(廢)馬損失手當標準率

標準率

評價格

六拾圓以上

六拾圓以下

五拾圓以内

四拾圓以内

十一、評價員ハ去勢技術員、郡市役所員、警察署員、産馬組合役員又ハ特別ノ技能ヲ有スル者ノ内ヨリ地方長官適宜指定セララルルコト  
 書式ノ一

去勢馬匹評價書

道廳府縣郡市町村字番地  
 所有者(管理者)何 之 誰

種 類	年 齡	身 幹	特 徵
毛 色			
用 途			
評 價			

右評價候也

年 月 日

道廳府縣郡市町村字番地

同

評價員

何

之

誰

評價員

何

之

誰



書式ノ二

斃(廢)馬鑑定書

同

評價員

何

之

誰

道廳府縣郡市町村字番地

所有者(管理者)何 之 誰

種額	毛色	用途	施行勢月日	斃死又疾ハ
年	身	特	病名及經過	明治何年何月何日斃死又ハ疾疾
齡	幹	徵		

右鑑定候也

年 月 日

道廳府縣(何郡何組合何農會何團體)  
馬匹去勢技術員 何 之 誰

●馬疫豫防ニ關スル件

明治四十二年十月三十日  
内閣訓令第一號

警視廳、北海道廳、府、縣

近來北海道及東北地方ニ流行スル馬疫ノ豫防ニ關シテハ曩ニ臨時馬疫調査委員會ヲ設ケ專ラ之カ研究調査

ニ從事セシムル所ナルモ未タ其ノ原因病性等ヲ斷定スルノ域ニ達セス從テ目下直ニ之ニ對シ獸疫豫防法ヲ適用シ又ハ特別ノ豫防法ヲ制定スルコト能ハスト雖本疫ノ傳染性タルコトハ疑ヲ容レサルノミナラス其ノ病症ノ間歇期ニ於テハ病馬ノ外觀殆ント健馬ト異ナラサル爲各地方ニ轉々賣買セラルルモノ多ク病毒日ヲ追フテ蔓延スルノ狀況ナルカ故ニ今ニ於テ適當ノ豫防手段ヲ講スルニ非サレハ遂ニ馬産上回復スヘカラサル損害ヲ醸スヘシ各廳長官ハ宜シク此ノ主旨ヲ體シ左記馬疫豫防心得竝病症説明書ヲ普ク管内ニ示シ馬匹所有者ヲシテ病性ヲ知悉セシムルト共ニ豫防ノ實行ヲ諭達獎勵シ以テ本馬疫ノ傳播ヲ防止スルコトニ努力スヘシ

右訓令ス

馬疫豫防心得

- 第一 本疫ハ主トシテ放牧期節中ニ多發スルモ他ノ期節ニ於テモ往々發病シ又放牧セサル使役馬ニモ發生スルコトアリ
- 第二 本疫ノ傳播ハ病馬及治愈不全ナル快復馬ノ媒介ニ基クモノニシテ殊ニ轉賣移動ノ爲漸次東北地方ヨリ南方ニ蔓延スルノ傾向アリ
- 第三 本疫ノ豫防ニ關シ馬匹ノ所有者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ實行スルヲ可トス
  - 一、本疫ノ初期ニ十分ノ手當ヲ施ストキハ治愈ノ望ナキニ非サルヲ以テ平素馬匹ノ容態ニ注意シ聊タリトモ異狀ヲ發見セハ直ニ獸醫ノ診察ヲ受クルコト
  - 二、凡テ馬匹ノ健康ヲ増進スルハ豫防上緊要ナルヲ以テ流行地ニ於テハ飼料飲料ニ注意シ成ルヘク滋養物ヲ給シ飲料水ヲ選ムコト、水ハ煮沸ノ後飲用セシムレハ最可ナリ
  - 三、病馬ハ勿論快復馬ト雖急劇ニ使役スルハ宜シカラス之カ爲病勢ヲ増進シ又ハ再發ノ虞アルヲ以テ成ルヘク長ク休養セシムルコト
- 四、本疫流行地ニ於テ買入レタル馬匹ハ獸醫ヲシテ検査セシメ尙成ルヘク一、二箇月間隔離視察シ其



- ノ健全ナルヲ認メタル後ニ非サレハ在來ノ馬匹ト混同シ又ハ同一牧場ニ放タサルコト
- 五、本疫ノ發生セル原野ニハ他ノ健馬ヲ放牧セサルコト
  - 六、共用放牧場ニ於テ本疫發生シタルトキハ病馬ハ直ニ厩舎ニ收容シテ手當ヲ爲シ殘餘ノ放牧馬モ成ルヘク厩舎ニ牽入ルルヲ可トス若シ厩舎ニ牽入ルルコト能ハサルトキハ放牧ノ儘一、二箇月間嚴重ニ視察シ獸醫ヲシテ時々健康診斷ヲ行ハシムルコト
  - 七、本疫流行地ニ於テハ成ルヘク蛇、蟄蟻ヲ避クヘキ手段ヲ講スルコト
  - 八、全治ノ見込ナキ重症病馬又ハ快復後體質不良ニシテ到底使役ニ供シ難キモノハ成ルヘク撲殺スルコト
  - 九、屍體、排泄物、厩舎、器具等ハ總テ消毒ヲ行フコト、糞便及敷藁ハ安全ナル場所ニ堆積シ約四尺立方積ニ達スルノ後土ヲ以テ之ヲ覆ヒ二箇月間醱酵セシメタル後肥料ニ供スルコト
  - 厩舎等ノ消毒ニハ熱滷汁、石灰乳等ノ消毒藥ヲ用フルコト
  - 屍體ハ深ク埋没スルコト但シ皮膚ハ豫メ亂截シ「爹兒」クレシン等ノ惡臭消毒藥ヲ注キ發掘ヲ防クコト
- 第四 本疫流行地ノ產馬組合等ニ於テ規約ヲ定メ左ノ事項ヲ實行スルトキハ豫防ノ効果一層大ナルヘシ
- 一、放牧原野殊ニ入會地ハ適當ニ區劃シ亂牧ヲ禁スルコト
  - 二、放牧地ニ於ケル排水ノ便ヲ圖ルコト
  - 三、獸醫ヲシテ隨時放牧馬ノ健康診斷ヲ爲サシムルコト
  - 四、本疫流行地ヨリ他ニ轉出スル馬匹ニハ獸醫ノ健康證明書ヲ添附シ又流行地ヨリ購入スル馬匹ハ必ス獸醫ヲシテ検査セシムルコト
  - 五、各流行地ニハ隔離病舎ヲ設クルコト但シ隔離病舎ハ成ルヘク人家及放牧地ヨリ遠サカリ且相當ノ設備ヲ爲スコト

第五

前諸項ノ外地方廳ニ於テハ流行地方ニ對シ取締上左ノ事項ヲ實施スルコトヲ要ス

- 一、馬匹ノ所有者、管理人又ハ獸醫本疫ニ罹リ又ハ其ノ疑アル病馬ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨警察官署又ハ市町村役場ニ届出ツルコト
- 前項ノ届出ヲ受ケタル市町村役場ハ警察官署ニ之ヲ通知スルコト
- 二、鄰接地方廳ハ本疫ノ發生傳播ノ狀況ヲ相互通知スルコト
- 三、第一號届出ノ病馬ハ成ルヘク時々地方廳ノ主任技師又ハ經驗アル獸醫ヲシテ検査シ診斷ノ當否ヲ確メシムルコト
- 四、現ニ本疫ニ罹レル馬匹ハ成ルヘク移動放牧ヲ止メ症候減退後ト雖約二箇月間ハ視察ニ付シ其ノ間發症スルトキハ更ニ視察期ヲ延長スルコト但シ視察中ノ馬匹ハ場所ヲ限リテ使役セシムルコトヲ得
- 五、本疫ニ罹リタル疑アル馬匹ハ前號ニ準シ少クトモ一箇月間視察ニ付スルコト
- 六、屍體排泄物其ノ他病毒ニ汚染シタル物件ハ之ヲ消毒スルコト

病 症 說 明 書

傳染性貧血 俗稱ブラリ病

本病ハ馬屬固有ノ傳染病ニシテ放牧地ニ於テ蔓延シ易ク主ニ放牧季節ニ流行スルモ舍飼ノ馬春冬ノ季節ニモ發生スルコトアリ病性頑固ニシテ治療ニ應シ難ク死亡率ハ百頭中四十乃至七十二達ス

病毒ノ本體ハ尙不明ナレトモ病馬及快復馬ノ血液及内臟中ニ存スルコトハ試験ニ依リテ證明セラレタリ乃チ血液ヲ健馬ニ注射スルカ又ハ之ヲ嚥下セシムルトキハ五六日乃至二十二日平均二週日ノ後ニ發病ス

(傳染法) ハ未タ詳カナラス佛、獨ノ研究者中消化器傳染ニ重キヲ置キ病毒ニ汚染セル厩舎、飼槽、水槽等ノ媒介ニ依リテ傳染スルモノト信シ或ハ昆蟲類ノ媒介ニ因ルト唱フルモノアリ

一部落ヨリ他ノ部落ニ傳播スルハ常ニ病馬ヲ移轉スルニ由ル殊ニ本疫ニ罹リテ一時症候ノ減退セル馬ハ



轉賣セラレ易キヲ以テ甚タ危険ナリ

〔症候〕 本病ノ特徴ハ腺疫、寒胃等ノ原因ナクシテ發熱シ心悸、脈搏ニ異狀ヲ來タシ漸次貧血ニ陥リ羸瘦スルモ食慾多クハ減損セス

通常畜主ノ目ニ觸ルルノ症候ハ大略左ノ如シ

病馬ハ厩舎内ノ一隅ニ佇立シ頭ヲ垂レテ沈鬱シ毫モ身傍ノ事ニ注意セス使役中ハ倦怠疲勞シテ發汗シ易ク歩様蹣跚タリ放牧地ニ於テハ他ノ馬群ト離レ頭ヲ垂レテ沈鬱スルヲ見ル此際檢温スレハ概ネ三十九度以上四十一二度ノ高熱ヲ示シ脈數ハ増加シ平素四十搏内外ノモノ五六乃至七八十二増加シ甚シキハ百内外ヲ算ス手ヲ左胸壁ニ抵スレハ心悸ノ亢進セルヲ觸知ス或ハ其ノ部ニ於テ心臟ノ鼓動ヲ目覩ス又下頸部ニ於テハ屢、頸靜脈ノ搏動スルヲ見ル眼、鼻、口ヲ開キ其ノ粘膜ヲ檢スルニ概シテ黃色ヲ帶フ病ノ初期ハ黃赤色若ハ濃赤色ニシテ黃色判然セサルコトアルモ一度貧血ニ陥リタルモノハ顯著ノ黃白色ヲ呈スルヲ特徴トス此ノ色彩ハ殊ニ結膜ニ著シク且結膜ハ眼瞼ト共ニ多少浮腫スルモノ多シ又結膜及鼻粘膜ニハ細小ノ血斑ヲ生シ顔面、頸部、胸腹下部、四肢等ニハ浮腫ヲ見ルコト多シ更ニ精密ニ診査シ且排泄物ニ注目スルトキハ左ノ病狀ヲ發見スヘシ

顎間部ニ輕微ノ腫脹アルモ腺疫ニ於ケルカ如ク甚シカラス且熱痛ヲ帶ヒス腰部ノ知覺ハ鈍クシテ尾ニ力ナシ

呼吸ハ増加スルコトアルモ打診及聽診上著シキ異常ナク肺ハ健全ナルヲ常トス心臟ノ濁音界ハ擴張シ心音ニモ屢、異狀ヲ認ム例之貧血性雜音、心音ノ重複、溷濁、弛張、間歇等ノ如シ

糞ハ褐色ノ小塊ヲナス青草ノミヲ食スルモノニ在リテハ必シモ然ラス往々下痢スルモノアリ尿量ハ増加スルヲ常トス而シテ發熱中竝重症ノ貧血ニ陥リタル馬ノ尿ハ概ネ多量ノ蛋白ヲ含有ス尿ニ醋酸ヲ加ヘテ煮沸スレハ絮狀ノ沈澱ヲ生ス

畜主ノ注意如何ニ因リテ病馬ノ發見ニ遲速アリ隨テ發見當時ノ容態一樣ナラサルハ論ナシ然レトモ初期ノ症候ハ輕々看過セラレ多クハ既ニ慢性ニ陥リ顯著ノ貧血ヲ呈シ或ハ已ニ瘦削スル病馬ニ於テハ循環器ノ異狀ヲ主トシ熱候ハ缺如スルコトアリ

心臟ノ異常ハ運動後殊ニ顯著ナリ試ニ病馬ヲ厩舎ヨリ牽出スニ概シテ歩行ヲ厭ヒ馳走ニ耐ヘス後體ニ力ナク歩様蹣跚トシテ脚ハ震搖シテ蹉跌シ易ク暫時運動セシムレハ速ニ倦怠疲勞シ鞭撻ヲ加フルニ非サレハ一步モ前ムコトヲ肯セサルニ至ル運動後左胸壁ヲ望メハ心臟部ノ跳動盛ニシテ頸靜脈ノ搏動モ亦旺盛ナリ脈數ハ屢々百以上ニ達シ容易ク元數ニ復セス呼吸モ亦促進ス此際最明瞭ニ異常ノ心音ヲ聽取シ得ルモノトス

輕症又ハ快復中ノ馬ヲ驅使スル場合ニ於テモ亦前記ノ症候ヲ認ム阪路ヲ登ラシムル時殊ニ甚シ〔經過〕 病症ニ由リ發病後數日ニシテ斃ルルモノアリ或ハ數箇月ニ彌ルモノアリ因テ本病ヲ急性、慢性ノ二症ニ區別ス

急性症高熱稽留シテ顯著ノ循環器障得ヲ呈シ脈ハ百内外、食慾ハ振ハス、粘膜ノ出血、諸部ノ浮腫水腫ヲ發シ數日ノ後斃ルルヲ常トス

本症ハ概ネ貧血ノ徵候ヲ缺キ結膜、鼻粘膜等ハ却テ充血シ屢々血斑ヲ生ス而モ尙ホ一種ノ黃色ヲ帶フルハ慢性症ニ同シ或ハ此期ニ於テ早ク既ニ貧血トナリ體重減却シ其ノ四分一乃至三分一ヲ失フモノアリ

慢性症ニ在リテハ熱ハ一旦發生スルモ一二日若ハ數日ニシテ分利シ元氣食慾ヲ回復シ暫時健康狀態ヲ示スモ其後數日(七日乃至二週間)ヲ隔テテ更ニ再三發症スルモノトス之カ爲メ病馬ハ漸次貧血ニ陥リ瘦削シ衰弱ノ極起立ニ耐ヘス褥創、心臟麻痺等ノ爲メ斃ル又慢性經過中病勢頓ニ増劇シ急ニ死スルモノアリ又幸ニシテ病勢衰フレハ全治セサルニアラサルモ快復期遷延シ久シク羸瘦スルモノ多シ或ハ五六箇月乃至七八箇月ノ後更ニ發症スルモノアリ三四歳ノ馬ニ於テハ屢、其ノ發育ノ障害セララルルヲ見ル



初回ノ熱候減退後ハ外觀全ク病前ニ異ナラス粘膜ノ黃色及血斑亦多クハ消散シ痕跡ヲ留メサルニ至ル  
只鼻粘膜ノ大血斑ハ壞死シテ潰瘍ニ變スルモノ多シ再三發作ヲ反覆スルニ隨ヒ粘膜漸次黃白色ニ變  
ス

食慾ハ發熱時ヲ除クノ外殆ント平日ニ異ナラス糞尿ノ性状ハ前ニ述フルカ如シ

脈數ハ常ニ五六十以上ニ居リ心悸亢進、鼓動變調シ呼吸數ハ増加シ疲勞、倦怠、發汗シ易ク力役、馳  
走、負重ニ耐ヘス殊ニ後體ニ力ナシ

浮腫ハ屢、増減消長シ創傷ハ癒合シ難シ

熱候ノ回歸スル度數及無熱期ノ長短ハ一樣ナラサルモ通常十日乃至十四五日ヲ隔テテ發病シ極熱期一  
日乃至三日ニシテ二三回ノ發作ヲ呈スルモノ最多ク五回以上ニ及フハ稀ナリ

血液ハ稀薄ニシテ其ノ凝固ハ緩慢不全ナリ之ヲ試驗管ニ受ケテ靜置スルトキハ赤血球ハ速ニ沈澱シテ  
管底ニ集リ其ノ上ニ多量ノ黃白色軟凝塊ヲ生シ血清ノ分離不良ナリ赤血球層ノ容積ハ健馬ニ在リテハ

血液全量ノ十分ノ四以上ナルヲ常トスレトモ本病馬ニ在リテハ十分ノ二、五以下ニ居ル又健馬ノ血液  
ハ一立方「ミリメートル」中ニ約六七百萬箇ノ赤血球ヲ算フルモ本病馬ニ在リテハ其ノ數三四百萬若ハ  
一百萬以下ニ減ス此ノ他白血球、血小板等ニモ多少ノ異狀ヲ見ル

勞働、放牧、不適當ノ飼養管理法ハ本病ノ再發ヲ促シ經過ヲシテ不良ナラシム寄生蟲及合併症モ亦本病  
ノ經過ニ不良ノ影響ヲ及ホスモノナリ

〔剖觀〕 本病ノ屍體ニ於テハ熱ト貧血トノ結果タル循環器系統血液製造器ノ變狀、臟器實質ノ變性ノ外  
特種ノ病的變狀ヲ見サルヲ常トス

急性症ノ屍體ハ概シテ敗血症ノ變狀ヲ呈シ血液ハ暗色濃厚ニシテ凝固不全ナリ此ノ他皮下粘膜漿液膜殊  
ニ心臟ノ内外膜、腎臟、腸粘膜等ノ出血、皮下及心囊水腫、心、肝、腎ノ濁腫、急性脾腫、淋巴腺ノ腫  
脹、充血又ハ出血、骨髓出血等ヲ主要ノ變狀トシ腦脊髓ニハ水腫若ハ大出血ヲ見ルコトアリ

慢性症ノ屍體ニ於テハ水腫、出血、實質炎、脾腫、淋巴腺肥大ノ外大貧血ヲ呈シ皮下血管ハ血液ニ乏シ  
ク大血管内ニハ少量ノ凝集血球ヲ交ヘタル黃白色ノ血漿又ハ黃白赤色ノ軟凝塊ヲ含有ス

臟器中變狀ノ最著シキハ心臟ニシテ屢、極度ノ脂肪變性ヲ見ル脾腫及脾門ノ淋巴腺腫、肝臟鬱血、脂化  
及白血性浸潤ノ如キモ亦屢、遭遇スル變狀ナリトス

大貧血ノ外著明ノ解剖的變狀ヲ見サル場合モ亦尠シトセス

〔類症〕 本病ト最モ誤診セラレ易キハ血斑病、白血病、流行性感冒、「ボルナ」病其ノ他内臟寄生諸症ナ  
リ或ハ老衰、使役過度、慢性胃腸病、營養不給其ノ他症候隱微ノ慢性病ニシテ本病ノ疑ヲ起サシムルモ  
ノナキニアラス

血斑病ハ概ネ腺疫ニ繼發シ大腫脹、大出血ヲ呈シ「コロイド」銀ノ注射ニ應シ血液ニ傳染力ナク屍體ニ  
於テハ淋巴腺ノ膿腫又ハ其ノ周圍組織ノ膿浸潤ヲ見ル

白血病ニ於テハ血液ニ特異ノ變狀アリ

流行性感冒ハ屢、大流行ヲ來タシ熱ノ回歸ヲ呈セス、其ノ屍體ニ於テハ肺臟及呼吸器ノ他部ニ變狀ヲ見  
ル

他ノ諸症ハ各自ノ症候ニ據リテ容易ニ鑑識スルヲ得

〔診徵〕 本病ノ診斷上最難シトスル所ハ其ノ經過ニ弛張、間歇アリテ症候ノ消退後ハ一見殆ント健體ト  
異ナル所ナキニ在リ故ニ症候不全ノ場合ニハ一回ノ検査ニ依リテ輕シク否認ノ斷案ヲ下スヘカラス必ス  
一定ノ期間視察スルヲ要ス他ニ合併症アルトキハ殊ニ然リ

疲勞倦怠發汗シ易ク營養不良ニシテ粘膜ノ血色ニ乏シキ或ハ之ニ黃色ヲ帶フルモノ脈數五十以上ノモノ  
輕微ノ運動ニ因リテ脈搏増加シ心悸亢進シ易キモノ時々沈鬱スルモノ他ニ異狀ナクシテ體温ノ高キモノ  
浮腫血斑ヲ呈スルモノ放牧中馬群ニ離ルルモノ歩様踴躍トシテ尾ニ力ナキモノ等ハ本病ノ疑アルヲ以テ  
他ノ馬匹ト隔離シ一二箇月間視察スヘシ但シ視察中ハ時々運動ヲ課シテ心機變調ノ有無ヲ檢スルヲ要



ス  
 診断ニ疑アルトキハ試験管沈澱法ニ依リテ赤血球層ヲ檢シ又ハ尿ノ蛋白質検査、死後剖檢等ヲ要ス  
 特異ノ熱候回歸シ心悸亢進失常シ、粘膜黃白色ヲ呈シテ試験管ニ受ケタル赤血球層十分ノ二以下ニ居リ  
 他ニ特殊ノ病徴ヲ呈セサルモノハ本病ト鑑定シテ可ナリ

明治四十五年三月二十五日印刷  
 明治四十五年三月三十日發行

馬 政 局

東京市麴町區隼町四番地

印刷者 川流堂 小林又七

陸軍省構内

印刷所 小林又七出張所